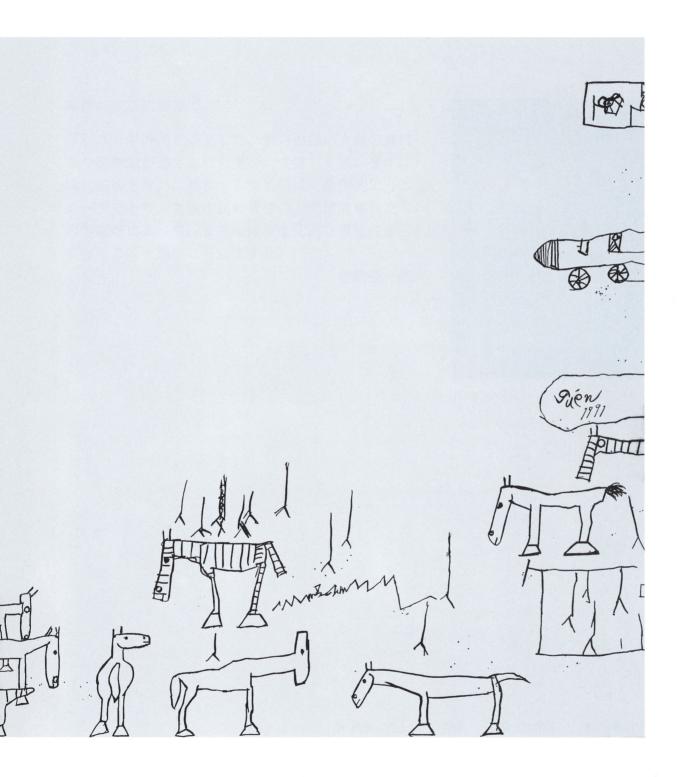
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館年報2001-2002





表紙 壁画『創造の広場』1991年 猪熊弦一郎 撮影 フォトス 高橋 章



縦 1150cm 横 2157cm 材質 大理石(ギリシア産)

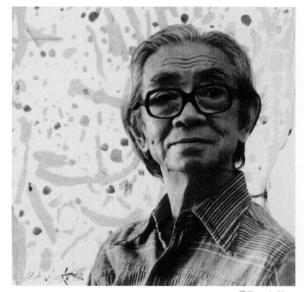
御影石 (岐阜・美濃産)

『壁画の主題になっている馬は、人間をはじめとする生き物の代表として描いたものです。壁画のあるゲートプラザには、壁画のほかに彫刻類もあり、この広場に立ったとき、空間の広さと美しさを感じ、それぞれの人に新たな創造の意欲がわき出るような広場にしたかったのです』 猪熊弦一郎

美術館設立に寄せて

『私が少年時代を過ごした、想い出深い丸亀の地にこの美術館が建てられた事を大変嬉しく思います。 現代美術を専門に展示する美術館は、全国的にもユニークであり、丸亀市民の皆様の力で建設されたこの美術館によって、まち全体が文化的な環境になって行くことを期待しています』

猪熊弦一郎



©Francis Haar

凡例

作品リストは自主企画にのみ掲載した。自主企画のうち図録を刊行したものについては図録内の作品リストを準処とした。猪熊弦一郎の作品の所蔵者は、特に記していない場合は当館である。

目次

Ι	沿革			······································	
\prod	展覧会事業				
	i	展覧会一覧	氢(20	01-2002)	
	ii	展覧会			
		2001年度	61	ジョージ・シーガル展-切り取られたその瞬間3	
			62	猪熊弦一郎展 カチナドールの宇宙······5	
			63	MIMOCA'S EYE VOL. 1 野口里佳展 [予感] ···················7	
			64	開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展	
			01	時代を生かし 彩ったもう一つの世界・・・・・・・10)
			65	北大路魯山人展20	,)
			66	手探りのキッス 日本の現代写真······24	
		2002年度	67	キッズ・サイズ・デザイン展	t
		2002千尺	07	子供たちのくもの>と<心>の世界25	-
			68	ミローマヨルカ島の光の中で······27	
			69	オシャベリ@美術館	
			09	みる・きく・はなす ピカソ、岸田劉生、ウォーホル etc. ········29	`
			70		
			70	猪熊弦一郎展 - 地図でない地図33 速水史朗展 - 嵐土記	5
			71		
ш	★ 4 1 1 日 東口	п <i>У</i> УС ТШ	72	ヴォルフガング・ライプ展 Durchgang - Übergang38	5
Ш	美術作品整理			4(
TT 7				4()
IV	教育普及事業				
	i 			f	_
	ii			⁷ ジオ「美術館であそぼう」44	
	iii			工化講演会	
	iv			48	
	V			月状況······51	
	vi			š52	
	vii			- h ·······53	
	viii	市内教職員	員対象	と解説会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54	1
V	その他事業				
	i			/ョップ・・・・・・55	
	ii			56	
VI				57	
$\mathbb{V}\!\mathbb{I}$				58	
$\mathbb{V}\!\mathbb{I}\!\!\mathbb{I}$				60	
ΙX	利用案内			61	1

T

沿革

1987年(昭和62年)10月 丸亀市が市制90周年事業として猪熊弦一郎美術館の建設を発表

7月 美術館建設懇談会、市長に意見書提出 8月 美術館建設基本構想策定

1988年(昭和63年) 1月 美術館建設懇談会設置

9 月	美術館基本設計委託
9 月	丸亀駅前地下駐車場建設工事着工
11月	美術館準備室設置
1989年(平成元年) 2 月	美術館基本設計完了
3 月	美術館実施設計委託
5 月	美術館基本設計変更案決定
9 月	美術館実施設計完了
11月	美術館建設工事着工
12月	美術館建設工事起工式
12月	猪熊弦一郎から丸亀市へ「夜」「猫に寄せる歌」
7 a	「Two Shores A」等、第一回分として作品1000点を寄贈
1990年(平成2年)3月	丸亀駅前地下駐車場建設工事竣工
1991年(平成3年)3月	JR丸亀駅南口広場の整備工事完成
3月	定礎式と壁画「創造の広場」除幕式
3月	猪熊弦一郎に名誉市民証授与される(丸亀市第1号)
6月	美術館建設工事竣工
9月	丸亀市美術館条例制定
10月	美術館の愛称が「MIMOCA」に決定
11月	落成式
11月	
1992年(平成4年)3月	
5月	猪熊弦一郎から丸亀市長とのかねてからの約束に
	基づき所有する作品等を市に寄贈する主旨の文書提出
10月	入館者10万人達成(9日)
12月	第26回サイン・デザイン賞受賞
	財団法人ミモカ美術振興財団設立
	猪熊弦一郎、東京にて死去(17日、満90歳)
	第34回建築業協会賞受賞
	第7回村野藤吾賞受賞
	入館者30万人達成(4日)
	ミモカフレンド発足
1996年(平成8年)4月	第5回公共建築賞(主催:社団法人・公共建築協会)、特別賞受賞(3日)
5 月	休館日改定(月曜日休館を廃止し、元旦より開館へ)
	料金体系改定(大学生料金を一般料金と分離し、高校生以下無料に)
	開館時間変更(午前10時から午後6時まで)
5 月	入館者50万人突破(15日)
9 月	インターネット(www)にホームページ開設 (5日)
1997年(平成9年)7月	美術館南北の市道の愛称を「美術館通り」、「いのくま通り」と設定
1998年(平成10年)11月	建設省設立50周年記念「公共建築百選」に選出
2000年(平成12年) 9月	
	香川県教育文化功労者受賞 (1日)
	開館10周年を迎える(23日)

\prod

展覧会事業

i

展覧会一覧

(2001 - 2002)

No 展覧会名

会 期

	60	ヤン・ファーブル展 Angel and Warrior - Strategy and	Tactics (年報1999-2000参照) 2001年3月3日~2001年5月27日
2001 (平成13年度)	61	ジョージ・シーガル展-切り取られたその瞬間	2001年6月14日~2001年7月22日
	62	猪熊弦一郎展 カチナドールの宇宙	2001年7月28日~2001年9月16日
	63	MIMOCA'S EYE VOL.1 野口里佳展[予感]	2001年7月28日~2001年9月16日
	64	開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展 時代を生かし 彩	ったもう一つの世界 2001年 9 月22日〜2001年12月 9 日
	65	北大路魯山人展	2001年12月15日~2002年2月3日
	66	手探りのキッス 日本の現代写真	2002年2月10日~2002年4月7日
2002(平成14年度)	67	キッズ・サイズ・デザイン展 子供たちのくもの>と<	(心>の世界 2002年4月13日〜2002年6月2日

68 ミローマヨルカ島の光の中で 2002年6月9日~2002年7月21日

69 オシャベリ@美術館 みる・きく・はなす ピカソ、岸田劉生、ウォーホル etc. 2002年 7 月28日 ~ 2002年 9 月23日

70 猪熊弦一郎展 一地図でない地図ー 2002年10月1日~2002年12月5日

71 **速水史朗展**一風土記一 2002年12月15日~2003年3月9日

72 ヴォルフガング・ライプ展 Durchgang - Übergang 2003年3月21日~2003年6月15日

\prod

展覧会事業

ii

展覧会

61 ジョージ・シーガル展―切り取られたその瞬間

菊 期 2001年6月14日(木)~7月22日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団 四国新聞社

後 援 アメリカ大使館

企 画 谷口事務所

2001年4月21日(土)~6月3日(日) ひろしま美術館
 2001年8月2日(木)~9月2日(日) 岐阜県美術館
 2001年9月13日(木)~10月21日(日) Bunkamura ザ・ミュージアム
 2001年11月1日(木)~12月14日(金) 秋田市立千秋美術館
 2002年3月16日(土)~5月12日(日) 宇都宮美術館

20世紀、アメリカを代表する彫刻家ジョージ・シーガル (1924-2000)の展覧会。シーガルの作り出した石膏の人体像はそれまでの彫刻とは異なり、実際生きている人間から直接型取りするという方法をとっている。シーガルは、普段目にしていながらも特に気にすることもなく通りすぎていく日常の一瞬の光景を、型取りした人体像と家具や標識など現実に存在する物とを組み合わせて提示することにより、現代社会の様々なあり方を問いかける。

本展では、2000年に急逝した作家自身の全面的な協力のもと自身のアトリエに愛蔵していた彫刻、壁面レリーフ、そしてこれまであまり紹介されることの少なかった初期の油彩および生涯描き続けたパステルの作品を展示し、シーガルの全貌を紹介した。





入場者数 4,982人

- ワークショップ **-**

6月23日(土)9時30分~12時

テーマ「ムニュムニュ、カッチリ。なぞ の物体とシーガル」

会 場 2階造形スタジオ

対 象 小・中学生

参加者数 27人

ギャラリー・ツアー「いっしょに見よう、シーガル展」

(一般) 6月24日(日),7月8日(日) 13時~ 参加者数 63人(2日間合計)

(小学生) 7月1日(日) 13時~

参加者数 8人

- ビデオ上映「GEORGE SEGAL STILL LIFE」-

6月16日(土),17日(日),30日(土),

7月1日(日),7日(土),8日(日),14日(土)

15日(日),21日(土),22日(日) 14時~

会 場 2階ミュージアムホール

参加者数 129人 (10日間合計)

62 猪熊弦一郎展 カチナドールの宇宙

 期 2001年7月28日(土)~9月16日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

1955年に渡米、抽象画家として新しい一歩を踏み出した猪熊は、以後およそ20年間をニューヨークに滞在、数多くの作品を生み出した。この再出発の基点にはアリゾナ砂漠縦断の旅がある。それは車で5日間にも及び、その最終地サンタフェで猪熊は2体のカチナドールを求めた。カチナドールは猪熊にとってアメリカでの最初のコレクションである。

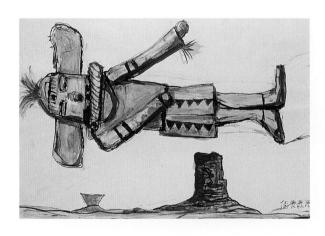
カチナとは、ネイティブ・アメリカンの人々に身の周 りにある様々なものの聖霊であると信じられている存在 で、人々はこのカチナの扮装をして儀式を行う。カチナ ドールとはポプラの一種であるコットンウッドという木 を削り、彩色を施し、鳥の羽などで装飾を加えてこのカ チナを模したもので、宗教的な教育の一環として子ども たちに与えられる人形である。幾何学的な模様や形から、 またアリゾナという土地柄からか、宇宙からやってきた 宇宙人を模して作られたのではないかとも言われてい る。

当時、宇宙に関心を寄せていた猪熊にとってカチナドールやアリゾナという土地はよほど魅力的な素材だったのだろう、カチナドールやアリゾナを主題に描いたスケッチの他、宇宙をテーマとした大作にもモチーフとしてたびたび登場している。

本展覧会では、画集「アリゾナとカチナドール」のも とになったドローイングをはじめ、宇宙を題材とした作 品など80年代前半に描かれた作品を中心に展観し、猪熊 が作品で表現しようとした宇宙観に迫った。

制作物 ワークシート





関連企画

ワークショップ -

8月11日(土) 13時~16時30分

テーマ 「宇宙をつくろう」

対 象 小・中学生

会 場 3階展示室 C、2階造形スタジオ

参加者数 26人

入場者数 6,238人

作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ(縦×横cm)
1	夜を飛ぶ	1980	アクリル・カンヴァス	137.0×122.3
2	黒の中に住む褐色の世界	1981	アクリル・カンヴァス	111.5×96.0
3	宇宙は機械の運動場 No.1	1981	アクリル・カンヴァス	200.0×140.0
4	宇宙は機械の運動場 No.2	1981	アクリル・カンヴァス	200.0×250.0
5	空中発芽	1983	アクリル・カンヴァス	126.2×96.0
6	出発	1983	アクリル・カンヴァス	136.0×121.5
7	創生期の花達	1983	アクリル・カンヴァス	91.0×126.0
8	星座の中の小さな五つの丸	1983	アクリル・カンヴァス	152.0×182.0
9	アリゾナ通信	1984	アクリル・カンヴァス	111.2×96.0
10	ノーチラス(オウム貝)の感性	1984	アクリル・カンヴァス	121.5×101.0
11	窓	1984	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3
12	宇宙胚胎	1984	アクリル・カンヴァス	194.0×130.4
13	五月金曜日	1985	アクリル・カンヴァス	136.0×122.0
14	アンテナと生物	1985	アクリル・カンヴァス	162.0×130.6
15	通信衛星	1986	アクリル・カンヴァス	194.0×259.0
16	星の中の一羽の鳥	1987	アクリル・カンヴァス	136.0×121.0
17	太陽と原始鳥	1988	アクリル・カンヴァス	194.0×259.0

画集「アリゾナとカチナドール」の原画(ドローイング)36点
計 53点
カチナドール

63 MIMOCA'S EYE VOL. 1 野口里佳展[予感]

அ 2001年7月28日(土)~9月16日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

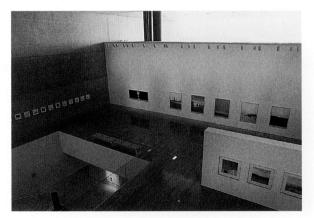
助 成 財団法人地域創造,芸術文化振興基金

当館の設立に寄与した猪熊弦一郎は、美術館の最も重要な使命のひとつに「若い作家を育てること」を掲げていた。この遺志に沿って、国内外を問わず優れた若手アーティストを紹介する展覧会シリーズ「MIMOCA'S EYE」が本展より始動した。

野口里佳は、1971年埼玉県生まれ。日本大学芸術学部 在学中より写真作品の制作を始め、その後世界各地で作 品を発表しつづける、現在その活動が最も注目されてい るアーティストのひとりといえる。

「予感」と題した本展は、進行中の新作シリーズ《ロケットの丘》をはじめ、東京近郊の工事現場を撮影した初期のモノクロ写真によるシリーズ《創造の記録》、アメリカとブラジルで制作されたシリーズ《ドリーミング・オブ・バビロン》、《果たして月へ行けたか?》の計4つの作品群からなる40点の写真作品で構成されている。そして、これから何かが始まる「予感」に充ちた、新たな可能性や未来を強く感じさせる展覧会となった。





刊行物 図録

- ワークショップ ----

8月4日(土) 13時~16時30分

テーマ 「写真集をつくろう」

講 師 野口里佳 (写真家)

対 象 小・中学生 会 場 2 階造形スタジオ, 2 階展示室 B

参加者数 15人

- MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 2-2 ---

8月5日(日) 14時~16時

テーマ 「見えているのに見えないもの」 講 師 野口里佳 (写真家) 会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 117人

野口里佳 作品リスト

作品番号	題名	3	制作年	技	法	寸法(たて×よこ)	所蔵先
創造の記録	录		1993 – 1996	ゼラチン・シル	ノバー・プリント	30.0×30.0	青山正博
1	創造の記録	# 1					
2	創造の記録	# 3					
3	創造の記録	# 4					
4	創造の記録	# 6					
5	創造の記録	# 7					
6	創造の記録	# 9					
7	創造の記録	#10					
8	創造の記録	#11					
9	創造の記録	#12					
10	創造の記録	#13					
11	創造の記録	# 14					
12	創造の記録	# 15					
13	創造の記録	# 16					
14	創造の記録	# 17					
15	創造の記録	# 18					
16	創造の記録	# 19					

作品番号	題	名		制作年	技	法	寸法(たて×よこ)	所蔵先
17	創造の記録	禄 #20				V 5-1-7-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-		
18	創造の記録	禄 #21						
19	創造の記録	禄 #22						
ドリーミ	ング・オブ・	バビロン		1998 -	Cプリ	ント	70.0×70.0	作家蔵
20	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	#11					
21	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	#12					
22	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	#13					
23	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	#14					
24	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	# 15					
25	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	#16					
26	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	#17					
27	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	#18					
28	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	#19					
29	ドリーミン	グ・オブ・バビロン	#20					
30	果たして力	月へ行けたか?		2000	ライトジェッ	トプリント	89.0×218.0	作家蔵
ロケット	の丘			2001 -	ライトジェッ	トプリント		作家蔵
31	ロケットの	の丘					149.5×119.5	
32	ロケットの	の丘					149.5×119.5	
33	ロケットの	の丘					149.5×119.5	
34	ロケットの	の丘					149.5×119.5	
35	ロケットの	の丘					149.5×119.5	
36	ロケットの	の丘					149.5×119.5	
37	ロケットの	の丘					149.5×119.5	
38	ロケットの	の丘					149.5×119.5	
39	ロケットの	の丘					90.2×238.0	
40	ロケットの	の丘					90.2×238.0	

64 開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展 時代を生かし 彩ったもう一つの世界

அ 2001年 9 月22日(土)~12月 9 日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

共 催 四国新聞社

後 援 香川県,香川県教育委員会 丸亀市,丸亀市教育委員会 NHK 高松放送局,西日本放送 KSB 瀬戸内海放送,山陽放送 岡山放送,TSC テレビせとうち

猪熊弦一郎は生涯を通じて画風を変化させながら多くの作品を描き続けた一方で、生活を取り巻くあらゆるものを美しくという気持ちで壁画や緞帳をはじめ、グラフィックやテキスタイルデザイン、新聞や雑誌の連載小説の挿絵などに取り組んだ。その中には三越の包装紙「華ひらく」やJR上野駅の大壁画「自由」など今なお企業や場所を象徴しているものも少なくない。また香川県庁の壁画「和敬清寂」他、香川県内で生活を送る場にもこれらの仕事が多数残されている。本展では、このことを改めて伝え、市内や県内の人々に猪熊を身近に感じてもらうとともに、美術館開館10周年を記念して、これら時代を彩った猪熊芸術の数々を作品の写真パネル、原画等もあわせて紹介し、猪熊のもう一つの面を明らかにした。





刊行物 図録

- 記念講演会 -

10月21日(日) 14時~

講 師 平野湟太郎(グラフィックデザイナー)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 32人

- 記念鼎談 -

11月25日(日) 13時~

出席者 田中一光(グラフィックデザイナー)

谷口吉生(建築家) 木島俊介(美術評論家)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 213人

- ビデオ上映 -

9月23日(日·祝),29日(土)

10月7日(日),13日(土),21日(日),27日(土)

11月3日(土·祝),11日(日),23日(金·祝),24日(土)

12月1日(土),9日(日) 14時~

会 場 2階ミュージアムホール

参加者数 160人 (12日間合計)

ギャラリートーク(担当学芸員による) -

9月30日(日),10月14日(日),28日(日)

11月18日(日),12月2日(日) 14時~

参加者数 40人 (5日間合計)

- MIMOCA'S BIRTHDAY 開館10周年記念日 -

11月23日(金·祝)

概要

要 開館10周年を記念して、終日観覧 無料の他、MIMOCA 抽選会など さまざまな企画をおこなった。

スペシャル・ギャラリー・ツアー

10時40分~17時

(毎時0分、20分、40分開始)

参加者数 254人 (20回合計)

当日入場者数 3,242人

作品リスト

デザイン

No.	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	所蔵	備考
■壁画	原画					
1	「デモクラシー」慶應義塾大学 学生ホール(現 西校舎学生食 堂)壁画原画	1949	鉛筆、水彩·紙	55.0× 79.0		
2 - 1	自由	1951	鉛筆、水彩·紙	31.5×147.5	香川県文化会館	
2-2	「自由JR 上野駅 中央コンコース壁画 原画	1951	鉛筆、インク・トレーシング ペーパー	31.3×148.2		
■テキ	-スタイル					
3	クロス	1991	綿	124.0×120.0(1パタ	ーン)	
4	クロス	1972	綿	68.0×119.5(1パタ	ーン)	
5	クロス	1972	綿	130.0×124.5(1パタ	ーン)	
6	クロス	1972	綿	43.0×124.5(1パタ	ーン)	
7	クロス	1972	綿	33.0×125.0(1パタ	ーン)	
8	スカーフ	不詳	絹	80.0×78.0		
9	風呂敷	不詳	絹	69.0×71.0		
10	風呂敷	不詳	絹	72.0×72.0		
11	風呂敷	不詳	絹	65.5×64.0		
12	風呂敷	不詳	絹	72.0×75.5		
13	風呂敷	不詳	絹	72.0×73.5		
14	風呂敷	不詳	絹	72.5×72.0		
15	風呂敷	不詳	絹	70.0×68.5		
16	風呂敷	不詳	絹	66.5× 66.5		
■家具	4					
17	スツール	1950	クローム塗金・木、鉄	$39.3 \times 39.3 \times 33.$	0	
18	真鍮網による椅子	1950	真鍮網、革、鉄	$91.5 \times 82.5 \times 72.$	5	1999年修復
19	寝椅子	1952	布、革、紐、木、鉄	$117.3 \times 70.2 \times 62.$	2	
20	テーブル	1953	木、紐、塩化ビニール板、鉄	$56.1 \times 119.2 \times 28.$	9	
21	サイドテーブル	1953	木、鉄	$38.0 \times 121.2 \times 32.$	0	
22	アケサイドテーブル	1953	アケビ材、鉄	60.6×41.9		
23	椅子	1953	布、紐、鉄	$38.7 \times 97.8 \times 29.$	8	
24	真鍮網による椅子	1954	真鍮網、革、鉄	52.0×31.0		
■グラ	ラフィック					
25-1	三越包装紙「華ひらく」	1950~	印刷·紙			
25-2	三越包装紙「華ひらく」原画	1950	水彩·紙	53.5×74.5	株式会社三起	È
25 - 3	三越包装紙「華ひらく」型紙	1950	インク、水彩・紙			
26-1	三越ショッパー	1957~	印刷·紙	40.0×32.0		
26-2	三越ショッパー原画	1957頃	鉛筆、水彩・紙・コラージュ	40.8×23.6	株式会社三起	È
27	三越クリスマス用包装紙原画	不詳	鉛筆、インク、水彩、シール・紙	45.5×60.5	株式会社三起	<u> </u>

No.	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	所蔵	備考
28-1	三越クリスマス用包装紙	1986	印刷·紙	59.9× 90.0		
28-2	三越クリスマス用包装紙原画	1986	インク、セロファン・紙	59.0×89.5	株式会社三越	
29-1	三越クリスマス用ショッパー	1986	印刷·紙	40.0× 32.0		
29-2	三越クリスマス用ショッパー原画	1986	インク、セロファン・紙	59.0×89.5	株式会社三越	
30	三越地下鉄半蔵門線三越前駅 開設記念ショッパー	1989	印刷·紙	40.0× 32.0		
31	三越ポスター	1989	印刷·紙	102.8×72.8		
32	三越ポスター	1989	印刷·紙	102.8×72.8		
33	株式会社文明堂新宿店包装紙	1953頃~	オフセット印刷	53.9×93.5		
34	株式会社文明堂新宿店風呂敷	1961	絹	72.0×72.8		
35	香川県物産協会包装紙	1955頃~	オフセット印刷	54.4×78.9		
36-1	キリンビール株式会社ポスター	1955	オフセット印刷	76.3×51.5	キリンビール株式会社	
36-2	キリンビール株式会社ポスター下絵	1955	水彩・紙・コラージュ	36.2×26.0	キリンビール株式会社	
37	キリンビール株式会社暑中伺いハガキ	1954	平版印刷	14.0×10.4		
38	有楽町西武ポスター	1986	オフセット印刷	102.8× 72.8		AD:田中一光 C:糸井重里 A:猪熊弦一郎
39	有楽町西武ポスター	1986	オフセット印刷	102.8× 72.8		AD:田中一光 C:糸井重里 A:猪熊弦一郎
40	有楽町西武ポスター	1986	オフセット印刷	102.8× 72.8		AD:田中一光 C:糸井重里 A:猪熊弦一郎
41	有楽町西武ポスター	1986	オフセット印刷	102.8× 72.8		AD:田中一光 C:糸井重里 A:猪熊弦一郎
42	有楽町西武ポスター	1986	オフセット印刷	102.8× 72.8		AD:田中一光 C:糸井重里 A:猪熊弦一郎
43	映画「生きる」ポスター	1952	オフセット印刷	73.0× 51.5	根本隆一郎	②東宝株式会社、 黒澤プロダクション
44-1	映画「生きる」プレスシート	1952	オフセット印刷	73.0× 33.5	道江達夫	©東宝株式会社、 黒澤プロダクション
44 - 2	映画「生きる」プレスシート 案	1952	クレパス・紙	31.7×24.2		

雑誌表紙・装丁画・挿絵等

No.	タイ	トル	制作年·掲載年月号·発行年	技法・材質	サイ	ズ (cm)	著者	出版者	所蔵	備考
■ 雑誌	表紙他									
45 - 1	新女苑(校正刷)	1948年3月号	印刷·紙	25.0)× 33.8		実業之日本	社	
45 - 2	新女苑(校正刷)	1948年6月号	印刷·紙	25.6	6×33.4		実業之日本社	社	
45 - 3	新女苑(校正刷)	1948年8月号	印刷·紙	27.0)× 35.8		実業之日本	社	
46 - 1	文學界(校正刷)	1949年 4 月号	印刷·紙	20.8	8× 30.3		文藝春秋新	社	
46 - 2	文學界(校正刷)	1949年8月号	印刷·紙	21.2	2×30.4	文藝春秋編輯	文藝春秋新	社	

No.	タイトル	制作年·掲載年月号·発行年	技法・材質	サイズ (cm)	著者	出版者	所蔵	備考
46-3	文學界 (校正刷)	1949年10月号	印刷·紙	27.0× 38.4	文藝春秋編輯	文藝春秋新社		
46 - 4	文學界 (校正刷)	1950年 5 月号	印刷·紙	21.3×30.2	文藝春秋編輯	文藝春秋新社		
46 - 5	文學界 (校正刷)	1950年11月号	印刷·紙	20.6×30.4	文藝春秋編輯	文藝春秋新社		
47 - 1	讃岐公論	1952年 5 月号	印刷·紙	21.1×15.3		讃岐公論社		
47 - 2	讃岐公論	1953年 9 月号	印刷·紙	21.0×15.3		讃岐公論社		
47 - 3	讃岐公論	1953年11月号	印刷·紙	20.8×15.2		讃岐公論社		
47 - 4	讃岐公論	1954年 5 月号	印刷·紙	21.0×15.2		讃岐公論社		
47 - 5	讃岐公論	1954年11月号	印刷·紙	21.0×15.2		讃岐公論社		
47 - 6	讃岐公論	1955年1月号	印刷·紙	21.5×15.2		讃岐公論社		
48 - 1	週刊朝日「原節子」	1956年2月12日号	印刷·紙	25.7×18.7		朝日新聞社		
48 - 2	原節子像	1955	油彩・カンヴァス	54.0× 47.0			個人蔵	
49 - 1	ドレスメーキング車内吊ポスター	- 1958年11月号	印刷·紙	37.3×53.0		鎌倉書房		
49 - 2	ドレスメーキング車内吊ポスター	- 1959年7月号	印刷·紙	37.3×53.0		鎌倉書房		
49 - 3	ドレスメーキング車内吊ポスター	- 1959年8月号	印刷·紙	37.3×53.0		鎌倉書房		
49 - 4	ドレスメーキング車内吊ポスター	- 1959年9月号	印刷·紙	37.3×53.0		鎌倉書房		
50 - 1	キリスト教保育	1982年12月号	印刷·紙	21.1×14.2		キリスト教保育連盟		
50 - 2	キリスト教保育	1984年2月号	印刷·紙	21.0×14.7		キリスト教保育連盟		
50 - 3	キリスト教保育	1985年3月号	印刷·紙	21.0×14.5		キリスト教保育連盟		
50 - 4	キリスト教保育	1985年 6 月号	印刷·紙	21.1×14.8		キリスト教保育連盟		
50 - 5	キリスト教保育	1986年 5 月号	印刷·紙	21.0×15.0		キリスト教保育連盟		
50 - 6	キリスト教保育	1987年12月号	印刷·紙	21.0×14.7		キリスト教保育連盟		
■装丁								
51	使徒行傳	1941	印刷·紙	18.3×13.8	石川達三	新潮社		
52	モズの靴屋さん 創作童話	集 1942	印刷·紙	18.5×12.7	松本惠子	鄰友社		
53	うるほいの部	1943	印刷·紙	18.3×13.0	渋澤秀雄	東寶書店		
54	真珠艦隊	1943	印刷·紙	21.2×15.0	火野葦平	朝日新聞社		
55	秋の歌	1943	印刷·紙	18.7×13.5	今日出海	三杏書院		
56	皇軍慰問	1944	印刷·紙	18.5×12.8	澁澤秀雄	東寶書店		
57	雪崩	1946	印刷·紙	21.0×15.1	大佛次郎	大地書房		
58	早春狂詩曲	1947	印刷·紙	18.4×13.1	石坂洋次郎	新体社		
59	青い山脈	1947	印刷·紙	18.6×13.0	石坂洋次郎	新潮社		
60	花紋	1947	印刷·紙	18.1×12.8	大佛次郎	大日本雄辯會講談社		
61	真珠夫人 上卷	1947	印刷·紙	18.5×12.8	菊池寬	家庭社		
62	臈たき花	1947	印刷·紙	18.7×13.3	中河與一	京都印書館		
63	巴里に死す	1947	印刷·紙	18.5×12.8	芹澤光治良	文潮社		
64	夜毎の夢に	1948	印刷·紙	18.4×13.0	芹澤光治良	真光社		
65	蕩兒	1948	印刷·紙	18.5×12.8	丹羽文雄	全國書房		
66	女達の家	1948	印刷·紙	18.8×12.8	丹羽文雄	鏡書房		
67	ノートルダムの傴僂男	1948	印刷·紙	18.5×12.8	ユーゴー著 松本泰譯	大泉書店		
68	ラ・ボエーム	1949	印刷·紙	18.5×12.9	ミュルジェ著 森岩雄譯	大泉書店		

No.	タイトル	制作年·掲載年月号·発行年	技法・材質	サイズ	(cm)	著者	出版者	所蔵	備考
69	ジキル博士とハイド氏	1949	印刷·紙	18.5×	12.9	スティーブンソン著 佐々木直次郎譯	大泉書店	-	
70	怪人ルパン	1949	印刷·紙	18.5×	12.9	モーリス・ルブラン著 保篠龍緒譯	大泉書店		
71	マノン・レスコオ	1949	印刷·紙	18.3×	12.9	アベ・プレヴォ著 河盛好蔵譯	大泉書店		
72	碎ける女	1949	印刷·紙	$18.6 \times$	12.8	舟橋聖一	大日本雄弁会講談社		
73	假面の告白	1949	印刷·紙	18.9×	13.7	三島由紀夫	河出書房		
74	古き泉のほとり	1950	印刷·紙	$18.7 \times$	13.3	石川達三	新潮社		
75	闘牛	1950	印刷·紙	$18.5 \times$	13.3	井上靖	文藝春秋新社		
76	武藏野夫人	1950	印刷·紙	$18.5 \times$	13.4	大岡昇平	大日本雄辯會講談社		
77	花の素顔	1951	印刷·紙	$19.5 \times$	15.8	舟橋聖一	改造社		
78	遠乘會	1951	印刷·紙	18.6×	13.2	三島由紀夫	新潮社		
79	緑の仲間	1952	印刷·紙	$18.6 \times$	13.3	井上靖	毎日新聞社		
80	朝の波紋	1952	印刷·紙	$18.7 \times$	13.3	高見順	朝日新聞社		
81	ビルマの竪琴	1953	印刷·紙	$21.5 \times$	15.4	竹山道雄	中央公論社		
82	眼の壁	1971	印刷·紙	15.1×	10.6	松本清張	新潮社		
83	開高健全作品 小説 1	1974	印刷·紙	$19.7 \times$	12.5	開高健	新潮社		
84	時計台の文字盤	1978	印刷·紙	$15.1 \times$	10.6	源氏鶏太	新潮社		
85-1	華岡青洲の妻・恍惚の 〈新潮現代文学51〉	人 1978	印刷·紙	20.0×	27.6	有吉佐和子	新潮社		
85-2	華岡青洲の妻・恍惚の 〈新潮現代文学51〉 表紙デザイン画	人 1978頃	アクリル、金属、 サンドペーパー・ 紙	34.3×	27.6				
85-3	華岡青洲の妻・恍惚の。 〈新潮現代文学51〉 表紙デザイン画	人 1978	アクリル・紙・ コラージュ	34.3×	21.7				
86 - 1	猫のいる日々	1978	印刷·紙	17.8×	12.0	大佛次郎	六興出版		
86-2	猫のいる日々 表紙原画	1978	鉛筆、インク、ア クリル・紙	27.0×	45.9				
87-1	官約移民百年記念ハワイ 歌集 DOVE	詩 1986	印刷·紙	19.5×	13.5	官約移民百年記念 ハワイ詩歌集刊行 委員会編集	国書刊行会制作		
87-2	官約移民百年記念ハワイ詩歌 DOVE 本扉 印刷見本		印刷·紙	28.5×	21.3				
87-3	官約移民百年記念ハワイ詩歌 DOVE 表紙指定紙	集 1986頃	鉛筆、インク・紙	42.2×	31.8				
87-4	官約移民百年記念ハワイ詩歌 DOVE 表紙原画	大集 1986頃	鉛筆、インク・紙	42.2×	31.6				

■新聞連載小説挿絵 原案

大佛次郎「雪崩」 (朝日新聞1936.8.24~12.31連載) 挿絵原案

88-1 2回 1936 インク・紙 29.4× 38.4

No.	タイトル	制作年·掲載年月号·発行年	技法・材質	サイズ (cm)	著者	出版者	所蔵	備考
88-2	14回	1936	インク・紙	29.0× 37.9				
88 - 3	109回	1936	インク・紙	29.3×37.9				
	舟橋聖一「花の素顔」 (朝日新聞1949.1.1~6. 挿絵原案	24連載)						
89 - 1	9 回	1949	インク・紙	39.5×27.2				
89 - 2	16回	1949	インク・紙	39.5×27.2				
89 - 3	72回	1949	インク・紙	39.5×27.3				
	高見順「朝の波紋」 (朝日新聞1951.10.1~12 挿絵原案	.31連載)						
90 - 1	3 回	1951	インク・紙	27.2×38.5				
90-2	43回	1951	インク・紙	38.5×27.3				
90 - 3	89回	1951	インク・紙	38.5×28.1				
	石川達三「悪の愉しさ」 (読売新聞1953.9.20~1954. 挿絵原案	4.26連載)						
91 - 1	23回	1953	インク・紙	39.1×27.2				
91 - 2	137回	1954	インク・紙	39.1×27.3				
二 杂件誌	表紙絵原画							
92	黒い髪	1950年 5 月号	水彩·紙	15.5× 11.7				「小説新潮」表紙絵
93	不詳	1950年12月号	クレパス、水彩・紙	15.3× 11.8				「小説新潮」表紙絵
94	自転車と娘	1954年3月号	クレパス、水彩・紙	15.0×14.1				「小説新潮」表紙絵
95	娘と鳩笛	1954年11月号	水彩·紙	15.5×14.7				「小説新潮」表紙絵
96	三月の顔	1956年3月号	水彩·紙	15.3×14.7				「小説新潮」表紙絵
97	砂浜の二人	1957年7月号	水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮」表紙絵
98	買物	1958年6月号	水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮 表紙絵
99	カナダの毛皮	1959年3月号	水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮」表紙絵
100	楽しい風景	1959年4月号	水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮」表紙絵
101	デイト	1959年9月号	水彩·紙	15.0×14.3				「小説新潮」表紙絵
102	タクシー	1960年5月号	水彩·紙	15.0×14.5				「小説新潮」表紙絵
103	アンティークショップ		水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮」表紙絵
104	クリスマスツリー	1962年12月号	水彩·紙	14.8× 14.7				「小説新潮」表紙絵
105	素人釣	1963年8月号	水彩·紙	14.7×14.7				「小説新潮」表紙絵
106	犬	1963年11月号	水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮」表紙絵
107	かきぞめ	1964年1月号	水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮」表紙絵
108	こたつ	1966年11月号	水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮」表紙絵
109	顔	1967年11月号	水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮」表紙絵
	ヒゲ	1968年9月号	水彩·紙	15.0×14.7				「小説新潮」表紙絵
110		TO 1 0 /1 .7	13-11/ 124	TO. O. T. T. I				- PUUTI ITIJ JANIANA

その他

No.	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	所蔵	備考	
————————————————————————————————————							
112	顔 8	1988	陶板	62.4×80.3			
113	裸子 顔 1	1988	陶板	71.7×68.3			
114	裸子と馬	1988	陶板	72.5×69.2			
115	顔 10	1988	陶板	72.3×69.5			
116	バレリーナ	1988	陶板·板	120.0×80.0			
117	顔 4	1992	陶板	45.6×36.8			
118	横顔	1992	陶板	45.2×37.0			
119	しずく 21	不詳	陶板	56.5×15.0			
120	しずく 8	不詳	陶板	17.4×14.3			
圖陶器	\$						
121		1988	陶器	21.0×3.4			
122		1988	陶器	19.9×3.0			
123		1988	陶器	$22.9 \times 23.3 \times 4.5$			
124	壺	1988	陶器	16.7×14.6			
■化料	庄廻し						
125	「虎を倒す象」大関増位山化粧廻しの絵	1948頃	岩絵具·絹	44.0×65.5	三保ケ関昇秋		
126	千秋帖	1948	墨·紙	26.8× 34.8	三保ケ関昇秋		

油彩

No.	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	備考
127	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6× 91.0	
128	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8×37.8	
129	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	116.8×91.0	
130	水差しを持てる女	1930	油彩・カンヴァス	145.5×112.0	
131	コンポジション	1930	油彩・カンヴァス	181.7×257.0	
132	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	180.0×290.0	
133	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1×288.7	
134	支那服の女	1936	油彩・カンヴァス	145.0×112.0	
135	黄昏	1937	油彩・カンヴァス	193.5×130.5	
136	夜	1937	油彩・カンヴァス	197.5×289.5	
137	昼	1937	油彩・カンヴァス	191.5×129.0	

^{**} No 2-1 自由は2001年11月10日~12月9日までの展示。

サイズは平面作品は縦×横、立体作品は直径×高さ、奥行き×幅×高さ、または縦×横×高さとする。

壁画・緞帳作品リスト

No.	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	所蔵	備考
壁画	Ī	A aprilian da masanin bera anakeni karapas kajin i isaa				
i ,	「デモクラシー」慶應義塾大学 西校舎学生食堂壁画	1949	エナメルペイント、 油絵具・板	437.0×651.0(2面)	慶応義塾大学	1961年移設 1988年修復 1991~1992年修復·移設
ii	「自由」JR 上野駅 中央コンコース壁画	1951	エナメル、油絵具・板	600.0×2720.0	JR東日本上野駅	1984年修復
iii	「和敬清寂」香川県庁舎 東館 1階ロビー陶画	1958	陶板	東面530.0×590.0(2面) 南面530.0×500.0(2面) 西面530.0×590.0(2面) 北面530.0×590.0(2面)	香川県	
iv	「愉快な散歩」朝日生命新宿本社ビル 1階エレベーターホールガラスモザイク 壁画	1964	ガラスモザイク	260.0×517.0	朝日生命保険 相互会社	
V	「律動」帝国劇場 ロビーステンドグラス	1966	ステンドグラス	240.0×550.0(6面)	東宝株式会社	
vi	「熨斗」帝国劇場 ロビー彫刻的オブジェ	1966	真鍮塗装 成型合板	$250.0 \times 380.0 \times 500.0$	東宝株式会社	
vii	名鉄バスターミナルビル エントランスレリーフ	1967	スチール、鉛	434.0×330.0	名古屋鉄道株 式会社	
viii	「都市・窓」東京會舘 本舘 1階ロビーモザイク壁画	1971	プラスチックモザイク	233.0×641.0(2面)	株式会社東京會舘	
ix	「金環」東京會舘 本舘ロビー電灯装飾	1971	真鍮塗装 成型合板	13個	株式会社東京會舘	
X	「音の世界」モザイク壁画	1979	モザイク	500.0×1000.0	財団法人 彫刻の森美術館	1982年·1984年 1990年·1997年修復
хі	「風車と太陽」香川県立丸亀高 等学校 図書館壁画	1987	陶板	220.0×1260.0	香川県立丸亀 高等学校	
x ii	「21世紀に贈るメッセージ」香川 県県民ホール 本館エントランスホール1・ 2階吹抜け部分壁画	1988	陶板	640.0×2860.0	財団法人置県百 年記念香川県芸 術文化振興財団 香川県県民ホール	
xiii	「創造の街」営団地下鉄半蔵門 線三越前駅 ホーム壁画	1989	インキ・アルミニウム	159.0×200.0 175.0×200.0 (2面を1組として36組)	帝都高速度交 通営団	
xiv	「極点」日本アイ・ビー・エム株式会社幕張事業所 6階アトリウム壁画	1991	インキ・アルミニウム	1640.0×820.0(4面)	日本アイ·ビー ·エム株式会社	建築設計者:谷口建築 設計研究所·日本設計 設計共同体
ΧV	「ロボット誕生」川崎市役所第3庁舎 1階市民ホール壁画	1993	陶板	1080.0×940.0	川崎市役所	
■緞帳	į					
xvi	「丸のよろこび」山梨県立県民 文化ホール 大ホール第2緞帳	1982	綴錦織	1100.0×2160.0	山梨県	
xvii	「丸の創造」広島厚生年金会館 大ホール緞帳	1985	不詳	1200.0×2100.0	健康文化センター 広島厚生年金会館	

No.	タイトル	制作年	技法・材質	サイズ (cm)	所蔵	備考
XVIII	「時代は躍進する」愛媛県県民文 化会館 メインホール第二緞帳	1986	綴織	1180.0×2300.0	愛媛県	
xix	「宇宙胚胎」十和田市民文化セン ター 大ホール緞帳	1986	綴錦織	800.0×1850.0	十和田市民 文化センター	
ii x	「都市創造」十和田市民文化センター 視聴覚ホール緞帳	1986	綴錦織	530.0×1100.0	十和田市民文 化センター	
ii x i	「内海21世紀」香川県教育会館 ミューズホール緞帳	1987	綴錦織	800.0×1308.0	香川県教育会館	
iixii	「太陽と月の住むところ」香川県 県民ホール グランドホール第1緞帳	1988	綴織	1150.0×2200.0	財団法人置県百 年記念香川県芸 術文化振興財団 香川県県民ホール	
iixiii	「明日に生きる」多度津町町民 会館 ホール緞帳	1991	綴織	900.0×1850.0	多度津町	設計:株式会社 浪速設計

[※] 猪熊弦一郎がデザインした壁画・緞帳は作品の性格上、展覧会会場での展示が不可能なため写真パネルでの紹介とした。 サイズは縦×横、または奥行き×幅×高さとした。 複数面で構成されている壁画については、1面のサイズを記載し、() 内は面の数とする。

65 北大路魯山人展

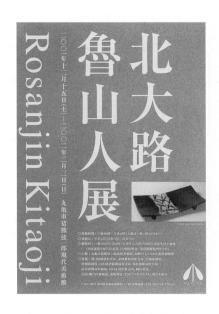
அ 2001年12月15日(土)~2002年2月3日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

後 援 朝日新聞高松支局,産経新聞高松支局 山陽新聞社,四国新聞社,日本経済新聞高松支局 毎日新聞高松支局,読売新聞高松総局 NHK高松放送局,岡山放送,KSB瀬戸内海放送 山陽放送,TSCテレビせとうち,西日本放送

魯山人は1883年京都生まれ。子どもの頃より書家とし ての頭角を表し、看板・版下書き・書道教授などを生業 としていたが、長浜や京都の豪商や素封家たちの食客と して過ごした時期があり、その中のひとり、金沢の細野 燕台に連れられた須田菁華窯での絵付けが魯山人にとっ ては初めての作陶体験となった。しかし本格的に作陶を するようになったのは40歳を過ぎてからで、その頃魯山 人は「星岡茶寮」を共同経営していた。ここでは魯山人 の美意識から古陶器が使用されていたが、店が繁盛する につれて食器が不足するようになり、そこで1927年、「魯 山人窯芸研究所星岡窯 | を鎌倉に開設、自らが作陶にあ たることになった。亡くなるまでの30余年の間に染付を はじめ、志野、黄瀬戸、織部、信楽、備前など、魯山人 の作陶は多岐にわたり、その数も20万点に及んだと言わ れている。書と同様とくに師があったわけではなく、同 じく鎌倉に「古陶磁参考館」を併設し、自分が良いと認め た古陶磁を集め、天性の審美眼を通してそれらを眺める ことで陶磁の中に宿る美の普遍性を学びとり、古来より 引き継がれる日本の風雅が宿る作品づくりを目指した。

魯山人の器は元来料理を盛り付けられることを前提と して作られているため、手にした時、あるいは食べ物を 盛り付けた時にこそその本領を発揮すると言われてい る。そこまで食と美の調和にこだわった人はいただろう か。それらの器群の中からは、魯山人独特の俎板盤や椿 鉢、そして数々の向付け、また器以外にも得意の書体を 呉須で活かした大壺などの名品が生まれた。





本展では初期の染付から晩年の備前に至る作品の 数々とともに、魯山人と交流のあった猪熊が生前愛 用していた作品を展覧した。

刊行物 図録

制作物 北大路魯山人展 鑑賞のてびき

子ども用 鑑賞のてびき

入場者数 11,121人

- 記念講演会 -

12月15日(土) 14時~

テーマ 「魯山人の芸術世界」

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 105人

- ギャラリートーク(担当学芸員による) **-**

12月23日(日・祝),1月6日(日),20日(日)

2月3日(日) 14時~

参加者数 117人(4日間合計)

- 添え釜 -

12月15日(土) 参加者数 220人 1月14日(月·祝) 参加者数 280人

- まるがめ婆沙羅と香道のつどい -

1月9日(水)

参加者数(午前の部) 19人

(午後の部) 15人

北大路魯山人 作品リスト

番号	作 品 名	制作年	所蔵先	寸法/cm	種別
1	備前緋襷丸形大鉢	昭和28年	京都国立近代美術館	高さ 6.7 最大径 42.5	陶器
2	備前四方盤	昭和29年	京都国立近代美術館	高さ 4.0×35.2×35.2	陶器
3	備前緋襷丸平鉢	昭和30年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 5.5 最大径 33.9	陶器
4	銀彩あやめ平向	昭和32年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 1.6 最大径 16.0	陶器
5	備前丸鉢	昭和30年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 2.8 最大径 23.9	陶器
6	櫛目文手塩皿	昭和30年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 1.0 最大径 11.7	陶器
7	志野若草文四方皿	昭和15年	京都国立近代美術館	高さ 2.0×18.4×18.4	陶器
8	志野四方鉢	昭和30年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 4.8×20.0×20.6	陶器
9	紅志野湯呑み	昭和29-32年頃	平野雅章	高さ 9.5 最大径 8.0	陶器
10	麦藁手湯呑み	昭和29-32年頃	平野雅章	高さ 10.5 最大径 9.0	陶器
11	鉄釉渦巻文湯呑み	昭和29-32年頃	平野雅章	高さ 9.0 最大径 8.0	陶器

2	番号、	作 品 名	制作年	所蔵先	寸法/cm	種別
14	12	鉄釉松林文湯呑み	昭和29-32年頃	平野雅章	高さ 10.5 最大径 9.0	陶器
15 銀彩秋草模様四方平林 昭和30年頃 丸亀市猪舶弦一郎現代美術館 高さ 5.8×34.0×35.5 16 銀三彩大平鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 6.5×36.5×36.5×36.5 17 総裁管模様四方平鉢 昭和30年頃 丸亀市猪舶弦一郎現代美術館 高さ 4.2×28.2×28.0 18 総織部線彫文角鉢 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 6.0×15.2×21.2 19 統部六角透平鉢 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.5×27.7×27.7 20 総織忠大深鉢 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.5×27.7×27.7 21 磁器赤絵筋文中皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.4 最大径 30.8 22 色絵文字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.4 最大径 28.2 23 赤絵魚文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 24 実付簿老文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.9 25 実付簿老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 26 奈線須徳利 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 27 赤呉須徳利 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.8 最大径 22.2 28 赤泉須徳和 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.2 最大径 1.2 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.2 最大径 1.2 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.2 最大径 1.2 20 泰丈酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 1.2 21 世紀谷美術館 高さ 2.9 最大径 1.2 22 株付竹文皿 昭和初即 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 1.2 23 大田石美術館 高さ 2.0 最大径 1.2 24 実付竹文皿 昭和初則 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 1.2 25 場付衛平脈 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 1.2 26 大田石美術館 高さ 3.0 最大径 1.2 27 未明確 第四年 昭和初期 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 1.2 28 大田石美術館 高さ 2.0 最大径 1.2 29 赤正酒盃 昭和初期 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 1.2 20 最大経 1.2 21 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 1.2 22 集付竹文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 1.2 23 集付権字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 1.2 24 集付工を実文大経營管 昭和20年 東都国立近代美術館 高さ 3.0 表大径 1.2 25 集付福字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.0 表大径 1.2 26 集付衛宇縣 昭和30年 東都国立近代美術館 高さ 2.0 表大径 1.2 27 集付葡萄文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 表大径 1.2 28 集付衛部手続 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.2 3 最大径 2.0 29 表大径 2.0 20 集付権字庫 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.2 3 長大径 2.0 20 集付権字庫 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.2 3 長大径 2.0 21 集付籍を終 昭和30年 東都国立近代美術館 高さ 0.0 米ス 3.5×27.0×27.0 21 集部権を終 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.0 9 最大径 2.0 22 集計権を終 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.0 9 最大径 2.0 23 集団衛年幹 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.0 ×23.5×23.5 24 集部国立近代美術館 高さ 1.0 ×23.5×23.5 25 表行経総四計 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.0 9 最大径 2.0 27 表記 第二年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2	13	志野木の葉鉢	昭和30年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 6.5×25.2×35.7	陶器
16 銀三彩大平鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 6.5×36.5×36.5×36.5×36.5×36.5×36.5×36.5×3	14	備前菖蒲文平鉢	昭和29年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 3.4×33.2×33.0	陶器
17 機部率模様四万平終 昭和30年	15	銀彩秋草模様四方平鉢	昭和30年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 5.8×34.0×35.5	陶器
18 総総部線彫文角鉢 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 6.0×15.2×27.7×27.7 20 総織部大海達中鉢 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.5×27.7×27.7 21 磁揚添添筋文中皿 昭和25年 京都国立近代美術館 高さ 18.0×39.8×37.2 21 磁揚添添筋文中皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 5.0 最大径 30.8 22 色絵文字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 28.2 23 赤絵魚文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.9 24 柴付海老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.9 25 柴付海老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 26 赤絵湯のみ 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 27 赤呉須徳利 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.5 最大径 7.2 28 赤呉須徳邦 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.3 最大径 12.0 29 赤玉酒蚕 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.3 最大径 12.0 30 赤玉酒蚕 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 31 色絵魚文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 32 柴付付文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 35.9 33 蟹絵平鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 35.9 34 柴付可紅文字文大磁器壺 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 35.9 35 柴付福平皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 柴付福平皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 柴付福平皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 37 柴付福平皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 21.2 38 生福平町 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 22.0 39 白地機構布 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3 最大径 22.0 39 白地機構布 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 22.0 39 白地機構布 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 22.0 40 銀彩柿花鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 22.0 41 紫錦鉢 (小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和20年 京都国立近代美術館 高さ 0.0×36.0×36.0 42 株田本美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 42 株田本美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 紫綿 京都国立近代美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 44 後継部口方角鉢 昭和20年 京都国立近代美術館 高さ 10.0×35.5×33.5 45 七田谷美術館 高さ 6.0 第大径 22.0 日本経典工作美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 46 在村畿市田介名 京都国立近代美術館 高さ 6.0 第大20×23.5×33.5 47 後都昭10年 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 第大20×23.5×33.5 48 後継部日方角 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 第大20×23.5×33.5 48 後継部口方角 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 第大20×23.5×33.5 47 後都昭10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 第大20×23.5 48	16	銀三彩大平鉢	昭和33年	京都国立近代美術館	高さ 6.5×36.5×36.5	陶器
19 織部大角透平躰 昭和32年 京都国立近代美術館 高さ 7.5×27.7×27.7 20 総総部大深躰 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 18.0×39.8×37.2 21 経器赤絵筋文中皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.4 最大径 28.2 22 色絵文字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.4 最大径 28.2 23 赤絵魚文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 28.5 24 染付滹老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 25 染付滹老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 26 赤絵湯のみ 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 27 赤泉須徳利 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.8 最大径 2.2 28 赤泉須独楽蓮向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1.0 最大径 9.0 28 赤泉須独楽蓮向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 4.9 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 4.9 31 色絵魚文皿 昭和4期 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 4.9 32 杂付作文皿 昭和4期 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 4.8 31 包絵魚文皿 昭和4期 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 3.9 32 銀紀平純 昭和4期 世田谷美術館 高さ 3.3 8×27.0×27.0 33 蟹松平純 昭和44年 京都国立近代美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 34 杂付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 35 杂付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 杂付福平皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.2 37 杂付葡萄文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.2 38 色絵条付館形料 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 21.2 39 白地金編手碗 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 40 銀彩権在鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 41 雲錦鉢 (小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 44 日本金経本科女 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 45 最初50年 京都国立近代美術館 高さ 10.9 第大径 22.0 46 監修本女 京都国立近代美術館 高さ 10.9 第大径 22.0 47 織部扇山外 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 第大径 22.0 48 北田谷美術館 高さ 10.9 第大径 22.0 49 北田谷美術館 高さ 10.9 第大径 22.0 40 北田谷美術館 高さ 10.9 第大径 22.0 41 田田谷美術館 高さ 10.9 第大径 22.0 42 七田谷美術館 高さ 10.9 第大径 22.0 43 電前 24 第大径 2	17	織部草模様四方平鉢	昭和30年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 4.2×28.2×28.0	陶器
20 総織郡大深鉢 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 5.0 最大径 30.8 21 磁器赤絵筋文中皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.4 最大径 30.8 22 色絵文字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.4 最大径 28.2 23 赤絵魚文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.9 24 染付海老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 25 染付海老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 26 赤絵湯のみ 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.5 最大径 22.2 28 赤呉須徳州 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.5 最大径 9.0 28 赤呉須独樂養向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 4.9 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 22.0 31 包絵魚文里 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 22.0 32 架村宿字皿 京都国立近代美術館 高さ 1.6	18	総織部線彫文角鉢	昭和24年	京都国立近代美術館	高さ 6.0×15.2×21.2	陶器
21 磁器赤絵節文中皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 5.0 最大径 30.8 22 色絵文字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.4 最大径 28.2 23 赤絵魚文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 28.5 24 染付海老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 25 染付海老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 26 赤絵湯のみ 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.5 最大径 9.0 28 赤呉須徳報 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.0 最大径 9.0 28 赤呉須徳報 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.0 最大径 12.0 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 4.8 31 色絵魚文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 4.8 32 染付竹文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 5.9 33 蟹奈平蘇 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 4.	19	織部六角透平鉢	昭和32年	京都国立近代美術館	高さ 7.5×27.7×27.7	陶器
22 色絵文字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.4 最大径 28.2 23 赤絵魚文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 28.5 24 染付海老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.9 25 染付海老文皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 26 赤絵湯のみ 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.5 最大径 9.0 28 赤呉須独楽蓋向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 4.9 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 4.9 31 色絵魚如皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 4.8 31 色絵魚文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 22.0 32 染付行文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 17.2 33 蟹絵平鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 34 染付福字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 22.0 35 染付福字皿 昭和10年之年 東部国立近代美術館 高さ	20	総織部大深鉢	昭和24年	京都国立近代美術館	高さ 18.0×39.8×37.2	陶器
23 赤絵魚文Ⅲ 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.9 24 染付海老文Ⅲ 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.9 25 染付海老文Ⅲ 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 26 赤絵湯のみ 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.5 最大径 9.0 28 赤呉須狭楽蘿向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 9.0 28 赤呉須狭楽蘿向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 4.8 31 色絵魚文Ⅲ 昭和初期 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 22.0 32 染付竹文Ⅲ 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 22.0 33 蟹絵平鉢 昭和10年20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 22.0 35 染付福字型 昭和10年20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 22.0 36 染付福等の 昭和10年代 世田谷美術館 高さ	21	磁器赤絵筋文中皿	昭和25年	京都国立近代美術館	高さ 5.0 最大径 30.8	磁器
24 染付海老文皿 昭和10~20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 25 染付海老文皿 昭和10~20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 26 赤絵湯のみ 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.0 最大径 9.0 27 赤呉須穂衆蓋向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.0 最大径 9.0 28 赤呉須雅衆蓋向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 4.8 31 色絵魚文皿 昭和初期 世田各美術館 高さ 2.5 最大径 22.0 32 染付竹文皿 昭和初期 世田各美術館 高さ 4.2 最大径 22.0 33 蟹絵平鉢 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 35 染付福字皿 昭和10~20年代 世田各美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和初期 世田各美術館 高さ 6.3×20.0×23.0×29.0 最大径 21.0 38 色絵染付館野館 昭和10年代 世田各美術館 <td>22</td> <td>色絵文字Ⅲ</td> <td>昭和10年代</td> <td>世田谷美術館</td> <td>高さ 3.4 最大径 28.2</td> <td>磁器</td>	22	色絵文字Ⅲ	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 3.4 最大径 28.2	磁器
25 染付海老文皿 昭和10 - 20年代 世田谷美術館 高さ 3.5 最大径 22.2 26 赤絵湯のみ 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.5 最大径 9.0 27 赤具須徳利 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.0 最大径 9.0 28 赤具須独楽蓋向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.3 最大径 12.0 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 4.8 31 色絵魚文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 22.0 32 染付竹文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 22.0 33 蟹絵平鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 34 染付日紅字皿 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 3.3.8×27.0×27.0 35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.2 37 染付葡萄文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3×20.0×29.	23	赤絵魚文皿	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 1.8 最大径 28.5	磁器
26 赤絵湯のみ 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 8.5 最大径 7.2 27 赤具須徳利 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.0 最大径 9.0 28 赤具須独楽蓋向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.3 最大径 12.0 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 4.8 31 色絵魚文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 22.0 32 染付竹文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 22.0 33 蟹絵平鉢 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 34 染付石至皿 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 21.2 37 染竹葡寺取 昭和初期 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付館形針 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 41	24	染付海老文皿	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 3.5 最大径 22.9	磁器
27 赤具須徳利 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.0 最大径 9.0 28 赤具須独楽蓋向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 8.3 最大径 12.0 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 4.8 31 色絵魚文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 22.0 32 染付竹文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 35.9 33 蟹絵平鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 35.9 34 染付日紅文字文大磁器壺 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 4.2 最大径 35.9 35 染付福字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 33.8×27.0×27.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.2 37 染付葡字皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付鲍形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輸在鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 9.7 最大径 12.0 41 <td>25</td> <td>染付海老文皿</td> <td>昭和10-20年代</td> <td>世田谷美術館</td> <td>高さ 3.5 最大径 22.2</td> <td>磁器</td>	25	染付海老文皿	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 3.5 最大径 22.2	磁器
28 赤具須独楽蓋向付 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 12.0 29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 4.8 31 色絵魚文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 22.0 32 染付竹文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 35.9 33 蟹絵平鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 34 染付田紅文宇文大磁器壶 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 3.8 ×27.0 ×27.0 35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 21.2 37 染付葡萄文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3 ×20.0 ×29.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輸在鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 22.0 41 雲錦幹 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 42	26	赤絵湯のみ	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 8.5 最大径 7.2	磁器
29 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 2.9 最大径 4.9 30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 4.8 31 色絵魚文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 22.0 32 染付竹文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 35.9 33 蟹絵平鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 34 染付口紅文字文大磁器壺 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 21.0 36 染付福字皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付鱠形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 12.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輸在鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 11.5 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 1	27	赤呉須徳利	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 12.0 最大径 9.0	磁器
30 赤玉酒盃 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 3.0 最大径 4.8 31 色絵魚文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 22.0 32 染付竹文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 35.9 33 蟹絵平鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 34 染付口紅文字文大磁器壺 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 3.8 ×27.0×27.0 35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 21.2 37 染付葡萄文鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付鮑形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3 ×20.0 ×29.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 9.7 最大径 19.8 41 雲錦鉢(小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 <td< td=""><td>28</td><td>赤呉須独楽蓋向付</td><td>昭和10年代</td><td>世田谷美術館</td><td>高さ 8.3 最大径 12.0</td><td>磁器</td></td<>	28	赤呉須独楽蓋向付	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 8.3 最大径 12.0	磁器
31 色絵魚文皿 昭和初期 世田谷美術館 高さ 2.5 最大径 22.0 32 染付竹文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 35.9 33 蟹絵平鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 34 染付口紅文字文大磁器壺 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 3.3.8×27.0×27.0 35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 21.2 37 染付葡萄文鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付鮑形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3×20.0×29.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 41 雲錦鉢(小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 11.5 最大径 22.0 42 棒文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 10.9 最大径 22.0	29	赤玉酒盃	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 2.9 最大径 4.9	磁器
32 染付竹文皿 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 4.2 最大径 35.9 33 蟹絵平鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 34 染付口紅文字文大磁器壺 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 33.8×27.0×27.0 35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 21.2 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 21.2 37 染付葡萄文鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付飽形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3×20.0×29.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.3×20.0×29.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 9.7 最大径 12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 9.7 最大径 19.8 41 雲錦鉢(小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×33.5×33.5 44 色絵金彩格文鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×36.0×36.0	30	赤玉酒盃	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 3.0 最大径 4.8	磁器
33 蟹絵平鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 4.0 最大径 17.2 34 染付口紅文字文大磁器壺 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 33.8×27.0×27.0 35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 21.2 37 染付葡萄文鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付鮑形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3×20.0×29.0 39 白地金欄手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和30年頃 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 高さ 9.7 最大径 19.8 41 雲錦鉢(小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 11.5 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和133年 京都国立近代美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×33.5×33.5 44 色絵金彩椿文鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 6.0×19.8×19.8 45 織部鳥文角鉢 昭和26年 京都国立近代美術館 高さ 15.0×23.5×23.5 47 織部扇面鉢 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 7.8×27.0×29.8 <td>31</td> <td>色絵魚文皿</td> <td>昭和初期</td> <td>世田谷美術館</td> <td>高さ 2.5 最大径 22.0</td> <td>磁器</td>	31	色絵魚文皿	昭和初期	世田谷美術館	高さ 2.5 最大径 22.0	磁器
34 染付口紅文字文大磁器壺 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ33.8×27.0×27.0 35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ2.0 最大径22.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ2.8 最大径21.2 37 染付葡萄文鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ12.3 最大径21.0 38 色絵染付鮑形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ6.3×20.0×29.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ6.0 最大径12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和30年頃 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 高さ9.7 最大径19.8 41 雲錦鉢(小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ11.5 最大径22.0 42 椿文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ10.9 最大径22.0 43 雲錦手大鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ20.0×33.5×33.5 44 色絵金彩椿文鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ20.0×33.5×33.5 45 織部鳥文角鉢 昭和26年 京都国立近代美術館 高さ6.0×19.8×19.8 46 蓋付織部四方角鉢 昭和28年 京都国立近代美術館 高さ7.8×27.0×29.8 48 織部扇面鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ7.8×27.0×29.8	32	染付竹文Ⅲ	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 4.2 最大径 35.9	磁器
35 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.0 最大径 22.0 36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 21.2 37 染付葡萄文鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付鲍形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3×20.0×29.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輸花鉢 昭和30年頃 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 高さ 9.7 最大径 19.8 41 雲錦鉢(小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×33.5×33.5 44 色絵金彩椿文鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×36.0×36.0 45 織部鳥文角鉢 昭和26年 京都国立近代美術館 高さ 6.0×19.8×19.8 46 蓋付織部四方角鉢 昭和28年 京都国立近代美術館 高さ 7.8×27.0×29.8 47 織部扇面鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 7.8×27.0×29.8 48 織部扇面鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.6×22.3×24.5 49 織部組板盤 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.0×24.8×50.0	33	蟹絵平鉢	昭和初期	世田谷美術館	高さ 4.0 最大径 17.2	磁器
36 染付福字皿 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 2.8 最大径 21.2 37 染付葡萄文鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付鮑形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3×20.0×29.0 39 白地金欄手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和30年頃 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 高さ 9.7 最大径 19.8 41 雲錦鉢 (小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×33.5×33.5 44 色絵金彩椿文鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×36.0×36.0 45 織部鳥文角鉢 昭和26年 京都国立近代美術館 高さ 6.0×19.8×19.8 46 蓋付織部四方角鉢 昭和28年 京都国立近代美術館 高さ 15.0×23.5×23.5 47 織部扇面鉢 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 7.8×27.0×29.8 48 織部扇面鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.6×22.3×24.5 49 織部組板盤 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.0×24.8×50.0	34	染付口紅文字文大磁器壺	昭和24年	京都国立近代美術館	高さ 33.8×27.0×27.0	磁器
37 染付葡萄文鉢 昭和初期 世田谷美術館 高さ 12.3 最大径 21.0 38 色絵染付鲍形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3×20.0×29.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和30年頃 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 高さ 9.7 最大径 19.8 41 雲錦鉢(小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 11.5 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×33.5×33.5 44 色絵金彩椿文鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×36.0×36.0 45 織部鳥文角鉢 昭和26年 京都国立近代美術館 高さ 6.0×19.8×19.8 46 蓋付織部四方角鉢 昭和28年 京都国立近代美術館 高さ 7.8×27.0×29.8 47 織部扇面鉢 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 7.8×27.0×29.8 48 織部扇面鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.6×22.3×24.5 49 織部組板盤 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.0×24.8×50.0	35	染付福字皿	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 2.0 最大径 22.0	磁器
38 色絵染付鮑形鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.3×20.0×29.0 39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和30年頃 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 高さ 9.7 最大径 19.8 41 雲錦鉢(小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 11.5 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×33.5×33.5 44 色絵金彩椿文鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×36.0×36.0 45 織部鳥文角鉢 昭和26年 京都国立近代美術館 高さ 6.0×19.8×19.8 46 蓋付織部四方角鉢 昭和28年 京都国立近代美術館 高さ 15.0×23.5×23.5 47 織部扇面鉢 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 7.8×27.0×29.8 48 織部扇面鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.6×22.3×24.5 49 織部組板盤 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.0×24.8×50.0	36	染付福字皿	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 2.8 最大径 21.2	磁器
39 白地金襴手碗 昭和16年 京都国立近代美術館 高さ 6.0 最大径 12.4 40 銀彩輪花鉢 昭和30年頃 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 高さ 9.7 最大径 19.8 41 雲錦鉢(小) 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 11.5 最大径 22.0 42 椿文鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 10.9 最大径 22.0 43 雲錦手大鉢 昭和33年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×33.5×33.5 44 色絵金彩椿文鉢 昭和30年 京都国立近代美術館 高さ 20.0×36.0×36.0 45 織部鳥文角鉢 昭和26年 京都国立近代美術館 高さ 6.0×19.8×19.8 46 蓋付織部四方角鉢 昭和28年 京都国立近代美術館 高さ 7.8×27.0×29.8 47 織部扇面鉢 昭和10-20年代 世田谷美術館 高さ 7.8×27.0×29.8 48 織部扇面鉢 昭和10年代 世田谷美術館 高さ 6.6×22.3×24.5 49 織部組板盤 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.0×24.8×50.0	37	染付葡萄文鉢	昭和初期	世田谷美術館	高さ 12.3 最大径 21.0	磁器
40銀彩輪花鉢昭和30年頃丸亀市猪熊弦一郎現代美術館高さ 9.7 最大径 19.841雲錦鉢 (小)昭和10年代世田谷美術館高さ 11.5 最大径 22.042椿文鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 10.9 最大径 22.043雲錦手大鉢昭和33年京都国立近代美術館高さ 20.0×33.5×33.544色絵金彩椿文鉢昭和30年京都国立近代美術館高さ 20.0×36.0×36.045織部鳥文角鉢昭和26年京都国立近代美術館高さ 6.0×19.8×19.846蓋付織部四方角鉢昭和28年京都国立近代美術館高さ 15.0×23.5×23.547織部扇面鉢昭和10-20年代世田谷美術館高さ 7.8×27.0×29.848織部扇面鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 6.6×22.3×24.549織部組板盤昭和24年京都国立近代美術館高さ 7.0×24.8×50.0	38	色絵染付鮑形鉢	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 6.3×20.0×29.0	磁器
41雲錦鉢 (小)昭和10年代世田谷美術館高さ 11.5最大径 22.042椿文鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 10.9最大径 22.043雲錦手大鉢昭和33年京都国立近代美術館高さ 20.0×33.5×33.544色絵金彩椿文鉢昭和30年京都国立近代美術館高さ 20.0×36.0×36.045織部鳥文角鉢昭和26年京都国立近代美術館高さ 6.0×19.8×19.846蓋付織部四方角鉢昭和28年京都国立近代美術館高さ 15.0×23.5×23.547織部扇面鉢昭和10-20年代世田谷美術館高さ 7.8×27.0×29.848織部扇面鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 6.6×22.3×24.549織部俎板盤昭和24年京都国立近代美術館高さ 7.0×24.8×50.0	39	白地金襴手碗	昭和16年	京都国立近代美術館	高さ 6.0 最大径 12.4	磁器
42椿文鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 10.9 最大径 22.043雲錦手大鉢昭和33年京都国立近代美術館高さ 20.0×33.5×33.544色絵金彩椿文鉢昭和30年京都国立近代美術館高さ 20.0×36.0×36.045織部鳥文角鉢昭和26年京都国立近代美術館高さ 6.0×19.8×19.846蓋付織部四方角鉢昭和28年京都国立近代美術館高さ 15.0×23.5×23.547織部扇面鉢昭和10-20年代世田谷美術館高さ 7.8×27.0×29.848織部扇面鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 6.6×22.3×24.549織部組板盤昭和24年京都国立近代美術館高さ 7.0×24.8×50.0	40	銀彩輪花鉢	昭和30年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 9.7 最大径 19.8	陶器
43雲錦手大鉢昭和33年京都国立近代美術館高さ 20.0×33.5×33.544色絵金彩椿文鉢昭和30年京都国立近代美術館高さ 20.0×36.0×36.045織部鳥文角鉢昭和26年京都国立近代美術館高さ 6.0×19.8×19.846蓋付織部四方角鉢昭和28年京都国立近代美術館高さ 15.0×23.5×23.547織部扇面鉢昭和10-20年代世田谷美術館高さ 7.8×27.0×29.848織部扇面鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 6.6×22.3×24.549織部組板盤昭和24年京都国立近代美術館高さ 7.0×24.8×50.0	41	雲錦鉢 (小)	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 11.5 最大径 22.0	陶器
44色絵金彩椿文鉢昭和30年京都国立近代美術館高さ 20.0×36.0×36.045織部鳥文角鉢昭和26年京都国立近代美術館高さ 6.0×19.8×19.846蓋付織部四方角鉢昭和28年京都国立近代美術館高さ 15.0×23.5×23.547織部扇面鉢昭和10-20年代世田谷美術館高さ 7.8×27.0×29.848織部扇面鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 6.6×22.3×24.549織部組板盤昭和24年京都国立近代美術館高さ 7.0×24.8×50.0	42	椿文鉢	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 10.9 最大径 22.0	陶器
45織部鳥文角鉢昭和26年京都国立近代美術館高さ 6.0×19.8×19.846蓋付織部四方角鉢昭和28年京都国立近代美術館高さ 15.0×23.5×23.547織部扇面鉢昭和10-20年代世田谷美術館高さ 7.8×27.0×29.848織部扇面鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 6.6×22.3×24.549織部組板盤昭和24年京都国立近代美術館高さ 7.0×24.8×50.0	43	雲錦手大鉢	昭和33年	京都国立近代美術館	高さ 20.0×33.5×33.5	陶器
46蓋付織部四方角鉢昭和28年京都国立近代美術館高さ 15.0×23.5×23.547織部扇面鉢昭和10-20年代世田谷美術館高さ 7.8×27.0×29.848織部扇面鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 6.6×22.3×24.549織部組板盤昭和24年京都国立近代美術館高さ 7.0×24.8×50.0	44	色絵金彩椿文鉢	昭和30年	京都国立近代美術館	高さ 20.0×36.0×36.0	陶器
47織部扇面鉢昭和10-20年代世田谷美術館高さ 7.8×27.0×29.848織部扇面鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 6.6×22.3×24.549織部組板盤昭和24年京都国立近代美術館高さ 7.0×24.8×50.0	45	織部鳥文角鉢	昭和26年	京都国立近代美術館	高さ 6.0×19.8×19.8	陶器
48織部扇面鉢昭和10年代世田谷美術館高さ 6.6×22.3×24.549織部俎板盤昭和24年京都国立近代美術館高さ 7.0×24.8×50.0	46	蓋付織部四方角鉢	昭和28年	京都国立近代美術館	高さ 15.0×23.5×23.5	陶器
49 織部俎板盤 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.0×24.8×50.0	47	織部扇面鉢	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 7.8×27.0×29.8	陶器
	48	織部扇面鉢	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 6.6×22.3×24.5	陶器
50 織部俎板盤 昭和24年 京都国立近代美術館 高さ 7.0×25.2×49.8	49	織部俎板盤	昭和24年	京都国立近代美術館	高さ 7.0×24.8×50.0	陶器
William Annual Avenual Live 110.	50	織部俎板盤	昭和24年	京都国立近代美術館	高さ 7.0×25.2×49.8	陶器

番号	作 品 名	制作年	所蔵先	寸法/cm	種別
51	織部四方平鉢	昭和29年	平野雅章	高さ 3.4×21.0×21.0	陶器
52	織部十字皿	昭和26年	京都国立近代美術館	高さ 3.0×21.0×21.0	陶器
53	伊賀しのぎ四方鉢	昭和30年頃	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	高さ 5.4×28.8×28.7	陶器
54	伊賀丸形鉢	昭和25年	京都国立近代美術館	高さ 5.0×33.0×33.0	陶器
55	黄瀬戸タンパンあやめ彫文角盤	昭和26年	京都国立近代美術館	高さ 4.3×20.0×20.0	陶器
56	伊賀釉平鉢	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 6.4 最大径 36.5	陶器
57	鉄絵皿	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 2.2 最大径 16.2	陶器
58	志野魚文皿	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 2.3 最大径 24.5	陶器
59	志野葡萄文平鉢	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 3.0 最大径 34.6	陶器
60	志野草文皿	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 2.4 最大径 24.0	陶器
61	絵瀬戸草文皿	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 2.7 最大径 23.5	陶器
62	黄瀬戸筒茶碗	昭和10-20年代	世田谷美術館	高さ 8.0 最大径 10.5	陶器
63	黄瀬戸あやめ文鉦鉢	昭和10年代	世田谷美術館	高さ 6.4 最大径 24.2	陶器
64	黄瀬戸福字鉢	不詳	世田谷美術館	高さ 5.6 最大径 24.7	陶器
65	信楽糸瓜花生	昭和32年	京都国立近代美術館	高さ 23.5×22.3×22.3	陶器
66	備前大手桶	昭和33年	京都国立近代美術館	高さ 38.2×26.0×26.0	陶器
67	信楽水盤 (大鉦鉢)	昭和31年	京都国立近代美術館	高さ 11.7×42.6×42.6	陶器
68	年魚図	不詳	世田谷美術館	縦 39.8 横 51.3(画面)	掛軸
69	茄子	不詳	世田谷美術館	縦 27.0 横 24.0(画面)	色紙
70	大明製染付鉢図	昭和16年	世田谷美術館	縦 40.0 横 50.8(画面)	掛軸
71	椿図	不詳	世田谷美術館	縦 35.3 横 47.2(画面)	掛軸
72	清泉	不詳	世田谷美術館	縦 43.5 横 70.0	濡額
73	佛	昭和33年	平野雅章	最大径 30.0(画面)	色紙
74	萬里白雲孤月円	不詳	世田谷美術館	縦 125.0 横 29.5(画面)	掛軸
75	天上天下唯我独尊	昭和15年	世田谷美術館	縦 23.7 横 71.0	画帖
76	春来草自生	不詳	世田谷美術館	縦 27.0 横 24.0	色紙
77	不讀居	不詳	世田谷美術館	縦 27.0 横 24.0	色紙
78	安心在一枝	不詳	世田谷美術館	縦 27.0 横 24.0	色紙
79	美しき日本を	昭和29年	平野雅章	縦 27.0 横 23.0	色紙

66 手探りのキッス 日本の現代写真

அ 2002年2月10日(日)~4月7日(日)

主 催 「日本の現代写真」展実行委員会 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団 朝日新聞社, KSB 瀬戸内海放送

助 成 (財)ポーラ美術振興財団

協 力 全日空,日本油脂,写真弘社 フェニックス,堀内カラー

箇 資生堂, アサヒビール, Nikon 富士写真フィルム, 第一生命 東レ

企業メセナ協議会認定

巡回先 2001年9月11日~11月25日 東京都写真美術館

日本の現代写真を紹介する展覧会。取り上げた8人の写真家は、過去の価値観が大きく転換しつつあるなかで、現実を真摯に見つめ、現代の価値観を反映した新たな表現の可能性を追求している。彼らはそれぞれに、自分の手法と視点から過去を見直し、修正し、解体し、再解釈することで、まだ見ぬ未来への予感を含んだ作品を作り上げている。また展覧会のタイトルは、未知の領域に踏み入ろうとする作家たちの試みと作品の魅力を、象徴的にあらわしたものである。それぞれに異なるテーマを表現した写真家たちに、大きな注目が集まった。

制作物 作品解説シート





関連企画

記念講演会 -

2月10日(日) 13時30分~15時

テーマ 「手探りのキッス 日本の現代写真」 講 師 笠原美智子(東京都写真美術館学芸員)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 53人

· ギャラリー・トーク(担当学芸員による) ·

2月24日(日)

3月10日(日),24日(日) 14時~ 参加者数 36人(3日間合計)

入場者数 4,275人

67 キッズ・サイズ・デザイン展 子供たちのくもの>とく心>の世界

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団 読売新聞大阪本社、美術館連絡協議会

後 援 外務省,文化庁,ドイツ外務省 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館 関西ドイツ文化センター,西日本放送

協 賛 花王株式会社,株式会社ミキハウス

2001年7月14日~9月2日
 サントリーミュージアム [天保山]
 2001年9月8日~10月21日
 徳島県立近代美術館
 2001年11月3日~12月2日
 リビングデザインセンター OZONE
 2002年2月9日~3月31日
 郡山市立美術館

アジアや欧米、アフリカなど世界各地で、様々な時代にデザインされた子どものための遊具や家具、日用品などを、5つのテーマ、一「眠る」「生きる」「遊ぶ」「動く」「学ぶ」ー、にわけて紹介した本展では、デザインを通して子どもたちの生活環境や健やかな成長を、そして子どもたちが持っている独自の文化的背景を見つめ直す機会の提供を目指した。

また、子どもがテーマとなっていることから、主に「家族」を念頭において広報活動および関連行事を行った。 おもちゃ店や子供服店、児童施設などへのチラシ、ポスターの配布のほか、子どものための遊び場「プレイ・ルーム」の設置やベビーカーの増設、授乳者への積極的な対応といった館内での家族向けユーティリティを通常よりも強化し、また子どもの同伴者への優待期間「ファミリー・ウィーク」とそれに付随したイベント「オープン・カフェ」を開催するなど、家族が気軽に展覧会や美術館を楽しめるよう配慮した。





制作物 マップとガイド

入場者数 9,300人

- ワークショップ「ベリーないす」--

5月11日(土),18日(土) 10時~12時(両日参加)

場 2階造形スタジオ、3階展示室 C 師 飯間洋士 (木工・家具製作)

講

参加者数 26人

- ファミリー・ウィーク ---

5月12日(日)~19日(日)

概 要 高校生以下の観覧者1名につき、 同伴者1名無料

期間中入場者数 2,488人(8日間合計)

- ギャラリー・トーク **ー**

4月13日(土),28日(日)

5月12日(日),13日(月),14日(火),15日(水)

16日(木),17日(金),18日(土),19日(日)

13時30分~14時15分

参加者数 計109人 (10日間合計)

- オープン・カフェ —

5月18日(土) 13時~18時

要 コーヒー、ジュース等飲料および

菓子、ケーキ等軽食の販売

所 1階ゲートプラザ

参加者数 342人

- MIMOCA 現代芸術入門講座 VOL. 3-1 -

6月2日(日) 14時~16時30分

テーマ 「ホルガー・マティスのグラフィ ックデザイン」

師 ホルガー・マティス

(グラフィックデザイナー/ベルリン芸術大学教授)

逐次通訳 浦西とみこ

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 197人

68 ミローマヨルカ島の光の中で

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

後 援 スペイン大使館,朝日新聞高松支局 産経新聞高松支局,山陽新聞社,四国新聞社 日本経済新聞高松支局,毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局,NHK高松放送局 岡山放送,KSB瀬戸内海放送,山陽放送 TSCテレビせとうち,西日本放送

協 力 全日空

 巡回先 2002年7月27日~9月1日 宮崎県立美術館 2002年9月7日~10月14日 三鷹市美術ギャラリー 2002年11月9日~12月29日 新津市美術館

20世紀美術の巨匠ジョアン・ミロは1893年、スペインのカタルーニャ地方の都市バルセロナに生まれ、1983年マヨルカ島でその生涯を閉じた。シュルレアリストの若き旗手として注目を集め、独自の発想から得られたユーモアあふれる明快な作風を展開したミロは、1956年マヨルカ島パルマにアトリエを建て、生涯にわたり制作を続けた。

本展は、アトリエを保存しミロ美術館を運営するピラール・イ・ジョアン・ミロ財団、マヨルカの全面的な協力のもと、主に1960~70年代の傑作より厳選された油彩、素描、版画、彫刻等、総数67点とアトリエに飾られていた様々なオブジェを展示しマヨルカ島の光の中で生まれたミロ芸術とその源泉を展観した。また会場内にミロの写真等を含めたパネルを展示し、ミロの生涯を紹介するコーナーを設けた。

刊行物 図録

制作物 ワークシート





入場者数 6,377人

記念講演会 -

6月9日(日) 14時~

テーマ 「JOAN MIRÓ MÁS ALLÁ DEL LENGUAJE PLÁSTICO DE LA PINTURA

(絵画という造形言語を超越したジョアン・ミロ)

師 ピラール・バオス(ピラール・イ・ジョアン・ミ 講

ロ財団,マヨルカ エキジビションコーディネーター)

逐次通訳 秦 隆昌

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 77人

ワークショップ(担当学芸員による)

7月14日(日) 10時~12時

テーマ「触って描く!?」

会 場 3階展示室 C、2階造形スタジオ

対 象 小学生以上

参加者数 30人

- ギャラリートーク(担当学芸員による) **-**

(おとな組)

6月16日(日),30日(日)

7月7日(日),21日(日) 13時30分~ 参加者数 126人(4日間合計)

(こども組)

6月23日(日),7月20日(土·祝) 13時30分~

対 象 小学生(保護者参加可)

参加者数 小学生6人,保護者3人(6/23)

小学生5人,保護者3人(7/20)

69 おしゃべりびじゅっかん オシャベリ@美術館 みる・きく・はなす ピカソ、岸田劉生、ウォーホル etc.

氨 期 2002年7月28日(日)~9月23日(月)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

後 援 朝日新聞高松支局,産経新聞高松支局 山陽新聞社,四国新聞社,日本経済新聞高松支局 毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局 NHK 高松放送局,岡山放送,KSB 瀬戸内海放送 山陽放送,中讃テレビ,TSC テレビせとうち 西日本放送,FM 香川,エフエム・セト

本展は、鑑賞教育を念頭において企画された、当館では初となる本格的な教育普及型の展覧会であり、通常の展覧会実施に用いられる方法論に加えて、様々な試みを実施した。まず「オシャベリ」という言葉をタイトルに使用しているように、鑑賞者に会場で気軽に語り合ってもらえるような工夫を凝らした点が挙げられる。具体的にはギャラリー・トークの開催回数を通常よりも大幅に増やし、さらに子ども向けと一般向けの2種類のギャラリー・トークを実施することで、幅広い層に対して、より多くの直接的なコミュニケーションを行える場を設定し、鑑賞のヒントを対話の中から適切に提供できるよう心がけた。

展示においても同様に、「オシャベリ」をしながら鑑賞できる環境づくりを意識し、各作品近くの壁面と床面に「吹き出し」(注:漫画などでセリフがかかれている箇所)を制作、各作品に対する4つのキャラクターからの様々な感想や意見を貼付した。これによって、鑑賞者は多くの意見に触れ、それらとの対話を通して自分の意見との共通点や相違点を発見し、作品鑑賞の多様性を身につけるきっかけとして機能した。

また作品に関しても、作家ごとや年代順ではなく、描かれたテーマによって「風景」「静物」「歴史/社会」「身体」の4つに分けることで、それぞれのテーマで表現された作品相互の連関を提示した。

このような教育普及的、鑑賞教育的な試みは、中長期





的に、より多くの観客に対して門戸を広げる大きな 働きを担っているといえるだろう。

刊行物 図録

制作物 作家プロフィール

関連企画

記念講演会·

7月28日(日) 14時~15時30分

講師 上野行一(高知大学教育学部助教授)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 41人

入場者数 8,147人

- テーマ別ギャラリー・トーク ---

(風 景) 8月10日(土),9月8日(日) (静 物)8月11日(日),9月7日(土) (歴史/社会)8月24日(土),9月22日(日) (身 体)8月25日(日),9月21日(土)14時~ 対 象 不問 参加者数 89人(8日間合計)

作品リスト

No.	作家	タイトル(和)	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵
風景	<landscape< td=""><td>≣></td><td></td><td></td><td></td><td></td></landscape<>	≣>				
L 1	岡田三郎助	甲州山中湖風景	1916	油彩・カンヴァス	53.2×73.1	大阪市立近代美術館建設準備室
L2	モーリス・ドニ	波	1916	油彩・カンヴァス	100.0×123.5	大原美術館
L 3	児島虎次郎	旭川の夏	1913	油彩・カンヴァス	66.0×81.5	大原美術館
L4	坂本繁二郎	放水路の雲	1927	油彩・カンヴァス	38.0×45.5	京都国立近代美術館
L 5	猪熊弦一郎	Garden	1956	油彩・カンヴァス	175.3×106.7	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
L 6	猪熊弦一郎	Water Shores B	1970	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
L 7	菅井汲	雲	1959	油彩・カンヴァス	146.0×114.0	高松市美術館
L 8	ロイ・リキテ ンスタイン	日本の橋のある睡蓮	1992	スクリーンプリント、エナ メル・ステンレススチール	211.5×147.3	国立国際美術館
L 9	デイヴィッド ・ホックニー	竜安寺の枯山水を歩く 1983年2月、京都	1983	写真コラージュ	103.2×160.5	広島市現代美術館
L10	杉本博司	「Night Seascapes」より 「IONIAN SEA S. CESAREA III」	1990	ゼラチンシルバー プリント	41.9× 53.7	大阪市立近代美術館建設準備室
L11	杉本博司	「Night Seascapes」より 「MIRTOAN SEA SOUNION III」	1990	ゼラチンシルバー プリント	41.9× 53.7	大阪市立近代美術館建設準備室

No.	作家	タイトル(和)	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵
L12	杉本博司	「Night Seascapes」より 「SOUTH PACIFIC OCEAN TEARAI」	1991	ゼラチンシルバー プリント	41.9× 53.7	大阪市立近代美術館建設準備室
L13	杉本博司	「Night Seascapes」より 「LIGURIAN SEA FRUMURA」	1993	ゼラチンシルバー プリント	41.9× 53.7	大阪市立近代美術館建設準備室
L14	杉本博司	「Night Seascapes」より 「TYRRHENIAN SEA CAPRI」	1994	ゼラチンシルバー プリント	41.9× 53.7	大阪市立近代美術館建設準備室
L15	杉本博司	「Night Seascapes」より 「NORTH PACIFIC OCEAN STINSON BEACH」	1994	ゼラチンシルバー プリント	41.9× 53.7	大阪市立近代美術館建設準備室
L16	杉本博司	「Night Seascapes」より 「LAKE SUPERIOR CASCADE RIVER」	1995	ゼラチンシルバー プリント	41.9× 53.7	大阪市立近代美術館建設準備室
静物	<still life=""></still>					
S 1	高橋由一	豆腐	1877	油彩・カンヴァス	32.8×45.2	金刀比羅宮
S 2	安井曽太郎	桃	1950	油彩・カンヴァス	74.0×62.0	京都国立近代美術館
S 3	藤川栄子	室内	1955	油彩・カンヴァス	81.0×100.0	高松市美術館
S 4	上田薫	なま玉子J	1978	アクリル・カンヴァス	162.0×130.0	高松市美術館
S 5	草間彌生	無題(金色の椅子のオブジェ)	1966	ミクストオブジェ	$83.0 \times 60.0 \times 64.0$) 高松市美術館
S 6	福田繁雄	アンダーグランド・ピアノ	1984	アクリル・木、金属	$120.0 \times 150.0 \times 150.0$) 広島市現代美術館
s 7	森村泰昌	仏手柑 (野島1)	1990	カラー写真	38.0×24.0	京都国立近代美術館
S 8	森村泰昌	仏手柑 (野島2)	1990	カラー写真	38.0×24.0	京都国立近代美術館
S 9	森村泰昌	仏手柑 (野島3)	1990	カラー写真	38.0×24.0	京都国立近代美術館
S 10	森村泰昌	仏手柑(野島4)	1990	カラー写真	38.0×24.0	京都国立近代美術館
S11	福田美蘭	静物	1991	カラープリント	46.0×84.0	国立国際美術館
S 12	福田美蘭	陶器	1992	カラープリント	46.0×65.2	国立国際美術館
S 13	笠原恵実子	Untitled 87-1	1987	タイル、ニッケル、鉛、 真鍮、木、セメント	$34.0 \times 72.0 \times 17.0$) 作家蔵
S14	笠原恵実子	Untitled 89 – 2	1989	革、大理石、木、ガラ ス、石膏、プラスチック	$53.0 \times 190.0 \times 105.0$) 作家蔵
S15	笠原恵実子	Untitled 89-4	1989	鏡、大理石、タイル、鉛	$160.0 \times 110.0 \times 412.5$	5 作家蔵
S16	笠原恵実子	Untitled 89 – 5	1989	タイル、ガラス、大理石、ス テンレススチール、セメント	$94.0 \times 144.0 \times 53.0$) 作家蔵
歴史	・社会 <histo< td=""><td>RY/SOCIETY></td><td></td><td></td><td></td><td></td></histo<>	RY/SOCIETY>				
Н1	ケーテ・コル ヴィッツ	突撃(『農民戦争』第5 葉)	1903	エッチング、アクアチン ト、布のステンシル・紙	50.7×59.2	伊丹市立美術館
H 2	ケーテ・コル ヴィッツ	鎌を研ぐ(『農民戦争』 第3葉)	1905	エッチング、ステ ンシル・紙	29.8× 29.8	伊丹市立美術館
Н3	ケーテ・コル ヴィッツ	アーチの下での武装 (『農民戦争』第4葉)	1906	エッチング、ステ ンシル・紙	49.7× 32.9	伊丹市立美術館
H 4	ケーテ・コル ヴィッツ	戦場(『農民戦争』第6葉)	1907	エッチング、ステ ンシル・紙	41.2× 52.9	伊丹市立美術館

No.	作家	タイトル(和)	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵
Н 5	ケーテ・コル ヴィッツ	囚われた人々(『農民戦 争』第7葉)	1908	エッチング、布の ステンシル・紙	32.7× 42.3	伊丹市立美術館
Н6	ジェイムズ・モンゴメリー・フラッグ	来れ、合衆国陸軍へ	1917	リトグラフ・紙	101.6×75.3	サントリーミュージアム [天保山]
Н7	猪熊弦一郎	コレヒドール	1942	油彩・カンヴァス	112.2×145.3	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
Н8	ロバート・キャパ	スペイン(共和軍兵士の死)	1936	ゼラチンシルバー プリント	22.8×33.8	京都国立近代美術館
Н9	アンディ・ウ ォーホル	キャンベル・スープI	1968	シルクスクリーン ・紙	各 88.9× 58.4 (10点組)	高松市美術館
H10	ベルント&ヒラ・ベッヒャー	鉱山塔	1986	写真	各 40.2× 30.5 (8点組)	ふくやま美術館
H11	張暁剛	ファミリー・ポートレイト《全家福》	1993	油彩・カンヴァス	100.0×130.0	徳島県立近代美術館
H12	ヤノベケンジ	アトムスーツプロジェクト: タンク、チェルノブイリ	1997	ライトボックス、カラー トランスペアレンシー	$120.0 \times 120.0 \times 21.0$	広島市現代美術館
H13	ヤノベケンジ	アトムスーツプロジェクト: 保育園1、チェルノブイリ	1997	ライトボックス、カラー トランスペアレンシー	$120.0 \times 120.0 \times 21.0$	広島市現代美術館
身体	<body></body>					
В1	アンドレ・ドラン	驚き	1938	油彩・カンヴァス	140.7×306.0	大阪市立近代美術館建設準備室
В2	パブロ・ピカソ	赤い枕で眠る女	1932	油彩・カンヴァス	38.0×46.0	徳島県立近代美術館
В3	安井曽太郎	婦人像	1930	油彩・カンヴァス	115.2×89.5	京都国立近代美術館
B 4	岸田劉生	麗子弾絃図	1923	油彩・カンヴァス	40.9×31.7	京都国立近代美術館
В 5	里見勝蔵	扇を持つ女	1932	油彩・カンヴァス	65.5×91.5	大原美術館
В 6	猪熊弦一郎	妻と赤い服	1950	油彩・カンヴァス	116.5×91.0	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
В7	大沢昌助	書きものをする娘	1957	油彩・カンヴァス	100.0×72.7	徳島県立近代美術館
В8	瑛九	少女の顔	1949	油彩・カンヴァス	53.0×45.0	徳島県立近代美術館
В 9	アンディ・ウォーホル	マリリン	1967	シルクスクリーン ・紙	各 91.5× 91.5(10点組)	滋賀県立近代美術館
B10	マグダレーナ・ アバカノヴィッチ	12体の立像(群衆シリ ーズ)	1989 — 90	黄麻布、樹脂	各175.0× 60.0× 30.0 (12体組)	徳島県立近代美術館
B11	ジム・ダイン	自画像		ステンシルの上に 手彩色・紙	152.5×101.5	滋賀県立近代美術館
В12	高松次郎	影の圧搾	1965	ラッカー・カンヴァス	133.0×162.0	高松市美術館
В13	ジャン=ピエー ル・レイノー	自刻像	1980	タイル、セメント	129.0× 46.0×46.0	国立国際美術館
B14	チャック・クロース	キースI	1981	ハンドメイドペーパー	88.9×67.9	徳島県立近代美術館
B15	森村泰昌	肖像(ヴァン・ゴッホ)	1985	カラー写真	120.0×100.0	高松市美術館

^{**} 材質で麻布、キャンバスと表記されるものは全てカンヴァスに統一した。 各カテゴリー内での作家の生年順に記載。カテゴリー内での同一作家の作品は制作年順。 サイズについては、縦×横、高さ×幅×奥行き 単位cmとする。

70 猪熊弦一郎展 一地図でない地図ー

அ 2002年10月1日(火)~12月5日(木)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

猪熊弦一郎は画家人生の大半を海外で過ごしている。 1955年からおよそ20年間をニューヨークで過ごし、健康 を害した後年は亡くなるまで毎年冬の間をハワイで暮ら した。

1955年世界旅行に旅立った猪熊は、ニューヨークに立ち寄ったことで新たに抽象画家としての道を歩みはじめた。40年代から50年代にかけてアメリカで起こった抽象表現主義の動きと、ニューヨークにそびえ立つ高層ビルの数々が猪熊の心を捉えたのである。渡米と同時に抽象画家としての道を歩みはじめた猪熊だが、60年代半ばから「都市」というモチーフを得、その後の作品を展開していった。1975年からのハワイでも引き続き「街」を描いた作品が制作されたが、ハワイでの作品には鮮やかな色彩を用いるようになっているなど大きな違いが窺える。

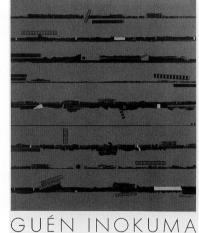
ニューヨークと晩年を過ごしたハワイと二つの異なる 土地で制作した猪熊の心の風景画とも言える作品を展示 し、その変遷を辿った。

制作物 鑑賞のてびき

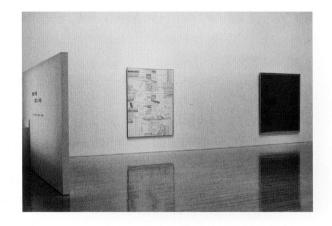
関連企画

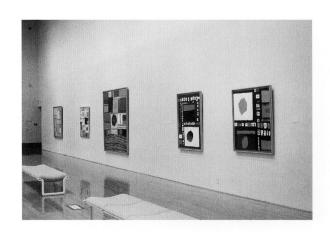
─ ギャラリートーク(担当学芸員による) - 10月13日(日),27日(日)

11月10日(日),24日(日) 14時~ 参加者数 43人(4日間合計)



G U É N I N O K U M A 諸原佐-前原 - 地図でない地図 - 2002年10月1日(火)-12月5日(木) ===== 丸亀市猪開弦-部現代美術館 ↑





入場者数 5,129人

作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材質	サイズ(縦×横cm)
1	都市計画	1962-63	油彩・カンヴァス	203.5×177.6
2	桃色の地図	1966	アクリル・カンヴァス	203.5×126.8
3	City Green Light	1967	アクリル・カンヴァス	152.7×127.3
4	Manhattan "B"	1967	アクリル・カンヴァス	203.7×152.6
5	The City Planning Yellow (No 2)	1968	アクリル・カンヴァス	203.4×152.7
6	The City Green No. 1	1968	アクリル・カンヴァス	203.5×178.0
7	The City Blue No 2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
8	驚く可き風景 (A)	1969	アクリル・カンヴァス	112.0×193.4
9	Water Shores A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3×178.0
10	二つの岸 C	1970	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
11	Landscape	1971	アクリル・カンヴァス	127.3×101.8
12	Landscape GT	1972	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
13	Landscape BY	1972	アクリル・カンヴァス	203.5×178.8
14	Landscape E	1975	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3
15	都市空間	1976	アクリル・カンヴァス	110.3×95.1
16	Rainbow Z 1	1976	アクリル、鉛筆・カンヴァス	194.0×130.4
17	Rainbow Z 2	1976	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3
18	白の道	1977	アクリル・カンヴァス	110.2×95.2
19	都市褐色	1977	アクリル・カンヴァス	136.0×122.0
20	丸の集落	1977	アクリル・カンヴァス	115.9×89.8
21	紫の場所	1977	アクリル・カンヴァス	110.3×95.2
22	角と丸 BX	1977	アクリル・カンヴァス	190.0×175.0
23	地図でない地図	1978	アクリル・カンヴァス	194.0×182.0
24	透明なる都市	1978	アクリル・カンヴァス	136.0×122.2
25	地図でない地図 (C)	1978	アクリル・カンヴァス	122.0×86.7
26	地図でない地図 (E)	1978	アクリル・カンヴァス	111.8×96.5
27	都市計画 (楽しいプロジェクト)	1979	アクリル・カンヴァス	89.8×125.3
28	都市の中の親しい仲間	1979	アクリル・カンヴァス	96.5×125.4

71 速水史朗展-風土記-

会 期 2002年12月15日(日)~2003年3月9日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団

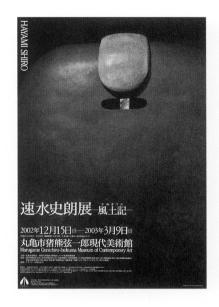
後 援 朝日新聞高松支局,産経新聞高松支局 山陽新聞社,四国新聞社 日本経済新聞社高松支局,毎日新聞高松支局 読売新聞高松総局,NHK高松放送局 岡山放送,KSB瀬戸内海放送,山陽放送 中讃テレビ,TSCテレビせとうち,西日本放送

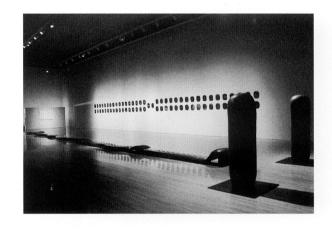
協 賛 アサヒビール株式会社

香川県多度津町出身の彫刻家、速水史朗(1927-)は、 伝統的な日本瓦の制作技法を用いた独特の陶や石彫の作品がよく知られているが、近年では滋賀県・信楽の陶土を用いた焼締めなど、新しい技法を積極的に取り入れた制作活動を行っている。それらの最新作および、1998年の回顧展(高松市美術館他)以降の近作で構成された本展は会場内にゆったりと展示され、速水作品の特色である讃岐の風土を感じさせるものとなり、作家の現在を知らせる良い機会となった。また作家本人がギャラリートークやワークショップなどの講師となり、鑑賞者、参加者と接する機会が多く設けられた。

刊行物 図録

制作物 作品リスト





関連企画

- 記念対談 -

12月15日(日) 13時30分~

対 談 者 速水史朗、粟津則雄(文芸評論家)

会 場 2階ミュージアムホール

聴講者数 55人

- 作家によるギャラリートーク **―**

1月12日(日),2月9日(日)

3月9日(日) 13時30分~

参加者数 124人 (3日間合計)

ワークショップ ー

テーマ「シローちゃんと遊ぼう」

講 師 速水史朗

会 場 2階造形スタジオ

【こども組】

1月5日(日) 10時~12時(制作)

2月2日(日) 14時30分~16時 (発表)

参加者数 17人・15人

【大人?組】

2月2日(日) 10時~12時(制作)

3月2日(日) 14時30分~16時(発表)

参加者数 19人・16人

速水史朗 作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材質	サイズ (cm)		所蔵先
1	SECTION '83	1983	瓦、木	h205.0× 51.0× 4.8	4点	作家
2	みんなおなじで みんなち がう	2000	瓦、漆	35.0× 30.0	2組(35 点1組)	作家
3	DON	2001	陶彫	h129.5× 80.5× 49.0		滋賀県立陶芸の森
4	BOUSHI I	2001	陶彫	h 73.0× 90.0× 60.0		滋賀県立陶芸の森
5	BOUSHI II	2001	陶彫	h 76.5× 69.0× 55.6		作家
6	紫香楽の山並	2001	陶周	$\begin{array}{llllllllllllllllllllllllllllllllllll$		作家
7	かお	2001	瓦、焼締め、真鍮	h 26.0∼ 33.5× 19.0∼24.0 × 18.0∼ 22.0	15点	作家
8	川のある風景	2002	アフリカ産黒花崗岩	h 40.0×2000.0× 96.0		作家
9	芽	2002	アフリカ産黒花崗岩	h260.0× 50.0× 15.0(2点) h240.0× 50.0× 15.0 h220.0× 50.0× 15.0 h200.0× 50.0× 15.0(2点) h180.0× 50.0× 15.0(2点) h160.0× 50.0× 15.0 h130.0× 50.0× 15.0	10点	作家
10	たまの出た石	2002	スウェーデン産黒花崗岩	h 57.0×107.0× 36.0		作家
11	あうん	2002	瓦	$h180.0 \times 46.0 \times 52.5$ $h185.0 \times 47.0 \times 54.0$		作家
12	KAWARA-'02MIMOCA	2002	瓦	h 20.0×2504.0×1967.0	1256点	作家

環境造形(写真パネルで展示)

番号	作 品 名	制作年	材質	サイズ (cm)	設置場所
E- 1	記録の門	1998	アフリカ産黒花崗岩	h614.0×408.0×290.0	香川県立陸上競技場エントラン スプラザ(丸亀市)
E-2	ひと・こころ	1997	アフリカ産黒花崗岩	$h340.0 \times 500.0 \times 240.0$	香川労災病院外来光庭(丸亀市)
E-3	ながれのかたち	1998	アフリカ産黒花崗岩	$h100.0 \times 2750.0 \times 70.0$	ミウラート・ヴィレッジ、三浦美術館(松山市)
E-4	未来へ	1998	アフリカ産黒花崗岩、中国産白花崗岩	$h400.0 \times 1280.0 \times 580.0$	鴨池公園内(鹿児島市)
E-5	良寛「高野紀行の碑」	1998	インド産黒花崗岩(どろかぶり石)	h234.0×190.0×236.0	高野山 奥の院参道(和歌山 県伊都郡高野町)
E-6	主(ぬし)	1998再設置 (1982制作)	白石島産白花崗岩	$h450.0 \times 315.0 \times 243.0$	中央公園(阪神電車 尼崎駅 前、尼崎市)
E-7	天(仙台市彫刻のあるまちづくり 事業第2期第10作品)	1999	アフリカ産黒花崗岩、宮 城県産どろかぶり石	h400.0×380.0× 40.0	葛岡墓園正面プロムナード(仙 台市)
E-8	人	1999	アフリカ産黒花崗岩	h360.0×300.0× 40.0	香川県立医療短期大学前庭 (香川県木田郡牟礼町)
E-9	湖(うみ)のしずく	1999	アフリカ産黒花崗岩	h 55.0×357.0×777.5	ピアザ淡海1階エントランスホー ル(大津市)
E-10	太陽の門	1999再設置 (1978制作)	スウェーデン産黒花崗岩、 白花崗岩	h300.0×128.0× 90.0	東灘区向洋町中7丁目(六甲 アイランド内、神戸市)
E-11	みんなげんきに	2000	アフリカ産黒花崗岩	$h180.0 \times 680.0 \times 60.0$	神奈川県国保会館(横浜市)
E-12	いのち	2001	アフリカ産黒花崗岩	h200.0×120.0× 60.0	下関市立しものせき水族館「海響館」敷地内(下関市)
E-13	永遠-Möbius	2002	アフリカ産黒花崗岩	h550.0×130.0× 66.0	神奈川大学横浜キャンパス1 号館水盤内(横浜市)
E-14	カ	2002再設置 (1968制作)	由良石	h273.0× 95.7× 96.5	善通寺市役所北側 片原町ポケットパーク内(善通寺市)
E-15	ふれあい	2002再設置 (1992制作)	アフリカ産黒花崗岩、中 国産白花崗岩	h230.0×4820.0×397.5	丸亀駅前広場(丸亀市)

※環境造形 (Environment Art) の番号は (E-no.) とした。

72 ヴォルフガング・ライプ展 Durchgang-Übergang

அ 期 2003年 3 月21日(金)~6 月15日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 財団法人ミモカ美術振興財団 東京国立近代美術館 関西ドイツ文化センター

特別協力 ルフトハンザドイツ航空会社

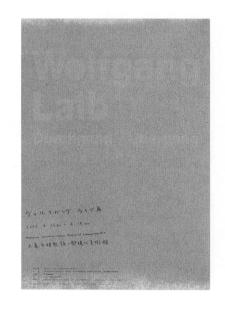
構 成 ifa [ドイツ対外文化交流研究所]

巡回先 2003年1月18日~3月9日 東京国立近代美術館

国際巡回展の一環として国内2ヶ所にて開催された、 ドイツ現代美術を代表するアーティスト、ヴォルフガン グ・ライプの日本で初めての大規模な個展。

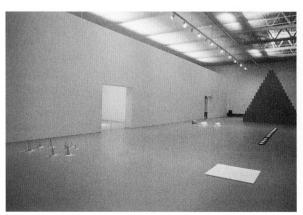
花粉や蜜蝋、牛乳、米、大理石など自然界に存在する 素材を極力加工せずに作品として提示し、素材のもつ力 を引き出そうとするヴォルフガング・ライプの姿勢とそ の作品は、自然の素材が持つ美しさとはかなさを再認識 させるに充分なものであった。人間だけでなく花粉を食 べる虫たちを含めた大きな意味での生命全体に捧げられ ているかのような《米の食事》では、米(種子)と花粉 という素材から、生命を生み出す「源」や次世代へとつ なぐ生命の架け橋としての役割が示唆されており、《マ ツの花粉》の床に蒔かれた、まるで発光しているかのよ うな花粉の色は生命への敬意に満ちている。しかしまた 同時に、《ミルク・ストーン》では磨き上げた石のよう に静かで永遠に不変の状態に見える滑らかな表面が、実 は牛乳で充たされ表面張力のみで保たれ、刻々と腐敗に 向かって進行していることは、生命の非常にはかなく危 うい状態をも提示しているといえるだろう。

生命と生命から生み出されるものの力強さや果てしない連環、それらと共にある個々の存在としてのはかなさや死といった私たちの根源に関わる思惟が提示されていた作品は、静謐な空間の中にあって、観るものに多くのことを語りかけていたように思われる。また本展では、



作品が持つ強度と、本展に内包された「生命」というもっとも身近でもっとも切実なテーマによって、「わかりにくい」とされる現代美術への先入観を、多くの観覧者が乗り越えるきっかけになったのではないだろうか。

刊行物 図録 **制作物** フロア・ガイド



[撮影:高橋章]

入場者数 10,490人

関連企画

- アーティスト・トーク **ー**

3月21日(金·祝) 14時~16時20分

講 師 ヴォルフガング・ライプ

聞き手 中田耕市(担当学芸員)

逐次通訳 松坂千也子

会 場 2階ミュージアムホール

参加費 無料

聴講者数 289人

- 記念講演会 -

5月4日(日) 14時~

講 師 クラウス・オットマン

(「Wolfgang Laib : A Retrospective」展キュレーター)

会 場 2階ミュージアムホール

上記講演会は講師急病のため中止。 3 階展示室 C にて担当学芸員によるギャラリー・ト

ークに差し替え(参加者数:37人)

- ギャラリー・トーク(担当学芸員による)

3月23日(日),4月6日(日),20日(日)

5月3日(土·祝),18日(日)

6月1日(日),15日(日) 14時~ 参加者数 187人 (7日間合計)

- ワークショップ ---

4月12日(土),19日(土) 10時~12時

テーマ「《ミルク・ストーン》のなぞ」

会 場 2階造形スタジオ、3階展示室 C

対 象 小・中学生

参加者数 11人・12人

4月13日(日)~18日(金)

6月2日(月)~8日(日) 10時~11時ごろ

各日1名(もしくは1組)

テーマ 「《ミルク・ストーン》にミルク

を注ぐ」

参加料 観覧料+500円

参加者数 20人 (13日間合計)

- ペア・ウィーク --

5月12日(月)~18日(日)

概 要 ペア(2人組)の観覧者1組につ き1名観覧料無料

期間中の入場者数 949人 (7日間合計)

- オープン・カフェ **ー**

5月17日(土) 13時~18時

概 要 コーヒーやケーキなどの飲食物を

販売

場 所 1階ゲートプラザ

参加者数 132人

Ⅲ 美術作品整理·管理 i 貸出し

作	品	名	制作年	作者	材	質	貸	出	先	貸出期間	展覧会名等
											2001年度(平成13年度)
イームズ	シェル	チェア	1950年頃	チャールズ・	ポリエス	テル、グ	マガミ	ジンハ	・ウス	2001. 6.26	雜誌『Casa BURUTUS』
ロッカー	ベース	(レモン		イームズ	ラスファ	イバー、	Casa	BURI	UTUS	~ 6.29	「みんなのイームズ!」
イエロー)				金属、木		編集			~ 6.29	2001年9月号第2巻
											第9号 Nol. 18

IV

教育普及事業

i ワークショップ

子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし、育むことを目的として、主に小・中学生を対象にワークショップを開催した。

ワークショップ名	開催日時·会場	講師	対 象	人数	参加費	内 容
「春だ!虫にんげん大作戦」	2001.4.14仕 9:30~13:00 造形スタジオ ·丸亀城	美術館スタッフ	小·中学生	24人	無料	ヤン・ファーブル展関連。紙などを使って虫に変身するための衣装や小道具を作り、実際にそれを付けて戸外で昼食をとる。(要弁当)
「すてきな音をあつめにいこう!」	2001.4.28仕) 9:30~12:00 造形スタジオ ・美術館周辺	美術館スタッフ	小·中学生	14人	無料	聴覚(音)に注目したワークショップ。通常なにげなく聞き逃している音を美術館外でテープレコーダーにて採集し、各班で発表する。
きむらとしろうじんじん「野点」 一焼立器飲茶美味窯付移動車	2001.5.12仕)・ 13(日)・15(火・17 (木)・19仕)・20(日) お昼過ぎから 日暮れまで 美術館周辺・ ゲートプラザ	きむらとしろ うじんじん (陶芸家)	一般	1645人 (見学約) (1100人)	¥1,000	陶芸家きむらとしろうじんじん氏がひくリヤカーで、素焼きに絵付けしガス 窯で焼いてもらい、お茶を飲む。約 1時間。
「ムニュムニュ、カッチリ。 なぞの物体とシーガル」	2001.6.23生) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	27人	無料	シーガル展関連。展覧会鑑賞後、 石膏の感触を確かめ、その性質を 知ることによって作品理解を深める。



ボードにペタペタ!おもしろランド (2001.10)



描いて着る☆ザTシャツ (2002.8)



森の秘密基地をつくろう (2003.3)

ワークショップ名	開催日時·会場	講師	対 象	人数	参加費	内容
夏休み 「風とおどろうーゆらゆらオブジェ」	2001.7.20(金祝) ~22(日) 14:00~17:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	不問	425人(3日間)合計)	無料	主に針金を使って風にゆれるオブジェをつくる。
夏休み 「描いて着るザ☆Tシャツ」	2001.7.29(日) ~8.2(木) 14:00~17:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	不問	285人 (5日間)合計)	¥300	専用の絵具で好きな絵を描き、自分 だけのオリジナル T シャツをつくる。
夏休み「写真集をつくろう」	2001.8.4仕 13:00~16:30 造形スタジオ ·美術館内	野口 里佳	小・中学生	15人	無料	「野口里佳展」関連。自分の写真を 持ちより、編集してタイトルをつけた オリジナル写真集をつくる。
夏休み「宇宙をつくろう」	2001.8.11仕) 13:00~16:30 造形スタジオ・美術館内	美術館スタッフ	小·中学生	26人	無料	展覧会「猪熊弦一郎展-カチナド ールの宇宙」を見た後、造形スタジ オいっぱいに自分たちの宇宙をつく る。
「色でいろいろ」	2001.9.8仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	23人	無料	身近なものの中から自分の好きな色 がついたものを集め、作品をつくる。
「布にデザイン!スカーフづくり」	2001.9.23(日祝) 9:30~12:00 造形スタジオ ·美術館内	美術館スタッフ	小・中学生	14人	無料	「猪熊弦一郎の仕事」展に出品されているスカーフを鑑賞後、実際にスカーフのデザインを考え、制作する。
「ボードにペタペタ!おもしろランド」	2001.10.13(±) 9:30~15:30 造形スタジオ	荒井 茂雄 (美術家・ 当館相談役)	小·中学生と その保護者	参加者 15人 保護者 13人	無料	家から作品に使えそうな小物を持ち より、パネルに貼りつけてコラージュ 作品を制作。
「スペース・ステーション21」	2001.11.10(土)・ 24(土) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	23人 24人	無料	ダンボール、廃品、大判のビニール シートを使って宇宙基地を作る。
「おっとびっくり!しめなわづくり」	2001.12.8仕) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	35人	無料	お正月にそなえて、おもしろいしめな わをつくる。
「みんなで焼く、焼き物。」	2002.1.26(土)・ 2.23(土) 9:30~12:00 9:30~16:00 造形スタジオ・美術館外	秋山 陣 (陶芸家)	小学生以上 一般	23人 子ども(17人) 大人(6人) 17人 子ども(12人) 大人(5人)	無料	1日目に茶碗やオブジェなどを形成し2日目に戸外で焼く。(2日目 要昼食)
「なすびねずみ!? 合体生物大集合」	2002.3.9(土)・ 23(土) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	15人	無料	なすびねずみ、いがぐりかたつむりなど2つ以上の生物を合体した想像上の生きものを廃品などでつくり、2日目に着色する。
「ニーハオ!ぎょうざをつくろう」	2002.4.13仕) 14(日) 10:00~12:00 10:00~14:00 造形スタジオ	姚斌 (美術家)	小・中学生	22人	¥200	中国出身のアーティスト姚斌さんを 迎えて、中国のおふくろの味である 水ぎょうざをつくる。1日目はつくりた いギョウザの絵を描き、2日目ギョ ウザをつくり試食。

ワークショップ名	開催日時·会場	講師	対 象	人数	参加費	内 容	
「ベリーないす」	2002.5.11(土)・ 18(土) 10:00~12:00 造形スタジオ	飯間 洋士 (木工·家具製作)	小·中学生	24人	無料	「キッズ・サイズ・デザイン展」関連。 子どもたちが子どもや大人のための 椅子づくりに挑戦する。	
	・美術館内			26人		何丁つくりに批判する。	
「モビール 〜バランスをとって、風で動く 立体をつくろう〜」	2002.6.15仕) 22仕) 10:00~12:00 造形スタジオ	杉本 公和 (現代美術作家)	小·中学生	21人	無料	針金を使って、空中でつりあいながら空気の流れで動く立体彫刻をつくる。	
夏休み「水族館をつくろう」	2002.7.29(用) ~31(水) ①10:00~ ②11:00~	美術館スタッフ	不問	子ども 473人	¥100	青のセロファンを天井からつりさげた 『水族館』中に、参加者が自由に作った魚や貝などを入れていき、水族	
Ж П•И (Л (Д)Д (В (У (У))]	③13:00~ ④14:00~ ⑤15:00~ 造形スタジオ	天前四ハブブブ	7 [14]	大人 82人	1100	館をつくっていく。1日目、2日目と 次第に作品は増えていき、完成す る。持ちかえり自由。	
夏休み	2002.8.7冰~ 13火 ①10:00~12:00	***	不問	子ども 583人	¥300	昨年にひき続いてのTシャツアート。 白いTシャツにアクリル絵具で自由 に絵を描く。アクリル絵具と定着剤を	
「描いて着る ザ☆T シャツ」	②13:00~15:00 ③15:00~17:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	/\n	大人 278人	₹300	使って描くので、洗っても色落ちはしない。	
「ミュージアム探検隊!」	2002. 9. 14(±)· 21(±) 10:00~12:00	美術館スタッフ	小·中学生	18人	無料	美術館のしくみを探検しながら美術 品を大切にしようという気持ちを育 てる。美術品を大切にしている美術	
77-10000000	造形スタジオ ・美術館内	天前加八///	7 1 1 1 1	3人	AWT I	館で働く人・施設と親しむ。あわせ て展示室も見学する。	
「ほくも、きみも、名カメラマン!」 ~野外彫刻を撮ろう~	2002.10.12(±) ·19(±) 9:00~12:00	高橋 章 (写真家)	小·中学生	19人	無料	こどものそれぞれの感性を生かした 写真を撮る活動。撮るものは1日目 は、市内の市民広場の中にある野	
* 生」クト向クタリで J収イン) *	造形スタジオ ・市民広場他	(子兵亦)		19人		外彫刻。2日目はこの発展として、 丸亀城を撮る。	
「みんなで焼く、焼き物。」	2002.11.9生) 23生祝) 10:00~12:00	秋山 陣	小学生以上	27人 子ども(18人) 大人(9人)	無料	陶芸の活動。1日目は土で自分の 作りたいものをつくる。その後、乾燥	
「かんな Cがtへがte1切。]	9:30~16:00 造形スタジオ ·市内	(陶芸家)	一般	21人 子ども(13人) 大人(8人)		させ野焼きで焼成する。	
「クリスマス・ツリーがやってきた!?」	2002.12.21仕) 10:00~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	31人	無料	紙・布・ワイヤなどの身近な素材を 生かした、ツリーづくり。ツリーができ あがったら、飾りをつけてできあがり。	
「カンタン 織物に挑戦!」	2003.1.25生) 10:00~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	25人	無料	織機を使わずに、ダンボールを使っ た簡単な織物を体験する。	
「からだを使って、足でふんで、 カラフル粘土をつくろう」	2003. 2. 8(±)· 15(±) 10:00~12:00	川崎 展子 (現代美術作家)	小·中学生	25人	無料	紙粘土に新聞紙、絵具を混ぜてオリジナル粘土をつくる。出来上がった粘土を好きな形にし、ワイヤーネッ	
	造形スタジオ 2003.3.22(生)・					トにつけたらできあがり。 1日目は主にダンボールを使って	
「森の秘密基地をつくろう」	29仕) 10:00~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小·中学生	21人	無料	基地のベースをつくる。2日目は布やCDケース、筒、絵具など様々な素材で基地を装飾する。	

W教育普及事業

ii オープン・スタジオ

オープン・スタジオ『美術館であそぼう』 《絵具で自由に絵を描く・土粘土で遊ぶ活動》

時 間/10時~11時30分

会 場/2階造形スタジオ

対 象/子ども・保護者

参加料/無料

申込不要

開催日	人	人数				
用惟口	子ども		計			
2003年1月4日(土)	27人	22人	49人			
2003年2月1日(土)	31人	12人	43人			
2003年3月1日(土)	48人	28人	76人			
計	106人	62人	168人			





IV

教育普及事業

iii コンサート·文化講演会

51 Bach-Saxophone-Space 清水靖晃コンサート

- 日 時 2001年11月3日(土·祝) 19時開演/20時20分終演
- 入場者数 253人(うち招待者9人)

- 会 場 2階展示室B
- 入場料 一般/前壳3,000円、当日3,500円(全席自由)
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館,財団法人ミモカ美術振興財団, 丸亀文化祭実行委員会
- 協 カ Sateto, ミホプロジェクト
- 出演者 清水靖晃(サキソフォン)

スパニッシュ・コネクション

日 時 2002年5月19日(日) 15時開演/17時終演

入場者数 319人

- 会 場 2階ミュージアムホール
- 入場料 無料
- 主 催 財団法人ミモカ美術振興財団,丸亀市国際交流協会,丸亀お城まつり協賛会
- 出演者 スパニッシュ・コネクション 〔伊藤芳輝(フラメンコ・ギター), 平松加奈(バイオリン), 吉見征樹(タブラ)〕

52 String Thing コンサート - 弦楽四重奏の新たな風ー

- 日 時 2002年10月5日(土) 19時開演/21時終演
- 入場者数 197人 (うち招待者9人)

- 会 場 2階ミュージアムホール
- 入場料 一般/前売3,000円, 当日3,500円(全席自由) 高校生以下/1,000円
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館,財団法人ミモカ美術振興財団, 丸亀文化祭実行委員会,関西ドイツ文化センター
- 助 成 よんでん文化振興財団、自由ハンザ都市ハンブルク文化局
- 協 力 Lufthansa
- 出演者 String Thing $[-129\cdot 2\nu \vec{v}(\vec{r}_{7}\vec{r}_{7}\vec{r}_{7}), \vec{v}_{7}\vec{r}_{7}\vec{r}_{7})$, $\vec{v}_{7}\vec{r}_{7}$

MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 2-1

- 日 時 2001年7月29日(日) 14時~15時50分
- 会 場 2階ミュージアムホール
- 受講料 無料
- 講 師 島袋道浩(美術家)、李禹煥(美術家)
- テーマ ひとつの出会いから
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団
- 協 賛 財団法人南海育英会
- 受講者数 75人

MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 2-2

- 日 時 2001年8月5日(日) 14時~16時
- 会 場 2階ミュージアムホール
- 受講料 無料
- 講 師 野口里佳(写真家)
- テーマ 見えているのに見えないもの
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団
- 協 賛 財団法人南海育英会
- 受講者数 117人

MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 2-3

- 日 時 2001年8月12日(日) 14時~15時40分
- 会 場 2階ミュージアムホール
- 受講料 無料
- 講 師 友沢ミミヨ(漫画家)
- テーマ 原始人のための漫画講座-日本とフランスのオルタナコミック界の交流
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団
- 協 賛 財団法人南海育英会
- 受講者数 88人

MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 2-4

- 日 時 2001年8月19日(日) 14時~15時40分
- 会 場 2階ミュージアムホール
- 受講料 無料
- 講 師 井上明彦(美術家/美術史家)
- テーマ この世を瞬間移動する
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団
- 協 賛 財団法人南海育英会
- 受講者数 53人

MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 3-1

- 日 時 2002年6月2日(日) 14時~16時30分
- 会 場 2階ミュージアムホール
- 講師ホルガー・マティス(グラフィックデザイナー/ベルリン芸術大学教授)
- テーマ ホルガー・マティスのグラフィックデザイン
- 逐次通訳 浦西とみこ
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館,財団法人ミモカ美術振興財団, 関西ドイツ文化センター
- 協 カ ルフトハンザドイツ航空会社
- 受講者数 197人

MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 3-2

- 日 時 2002年8月3日(土) 18時30分~20時20分
- 会 場 2階ミュージアムホール
- 受講料 500円 (高校生以下・当日の展覧会チケットをお持ちの方は無料)
- 対 談 皆川明+菊地敦己
- 講 師 皆川明(minä デザイナー)、菊地敦己(Bluemark アートディレクター)
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館,財団法人ミモカ美術振興財団
- 受講者数 166人(うち有料81名、無料・招待85名)

MIMOCA 現代芸術入門講座 vol. 3-3

- 日 時 2002年8月31日(土) 18時30分~20時20分
- 会 場 2階ミュージアムホール
- 受講料 500円 (高校生以下・当日の展覧会チケットをお持ちの方は無料)
- 対 談 石橋義正+江村耕市
- 講 師 石橋義正(キュピキュピ・ディレクター/映画監督)、江村耕市(キュピキュピ代表/デザイナー)
- 主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振興財団
- 受講者数 107人

IV

教育普及事業

iv 刊行物一覧

2001年 (平成13年8月)



MIMOCA'S EYE VOL. 1:野口里佳展 [予感]

仕 様 B 5 版変形 67ページ

編集·制作·発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

デ ザ ィ ン 中島英樹 (中島デザイン)

印 刷 平和写真印刷株式会社

内 容 図版/ごあいさつ/「物語から紡ぎだされるもの」中 田耕市/略歴/主な文献/出品作品一覧/会場写真/

謝辞

発 行 部 数 2,000部

価格 1,500円

2001年 (平成13年9月)



開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展

一時代を生かし 彩ったもう一つの世界一

仕 様 A4判変形 110ページ

編集·発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

製 作 大塚巧藝社

内 容 ご挨拶/「20世紀を仕事にした師 猪熊弦一郎」荒井 茂雄/「猪熊弦一郎、その二つの眼」森章栄/図版/

年譜/展覧会歴/主要参考文献/作品リスト/猪熊弦

一郎デザイン壁画・緞帳作品リスト/謝辞

発 行 部 数 1,200部

価 格 2,000円

2001年 (平成13年12月)



北大路魯山人展カタログ

様 B 5 版変形 112ページ

編集 · 制作 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

ィン 平野湟太郎/安藤剛史/竜田麻衣

囙 刷 平和写真印刷株式会社

発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

ごあいさつ/謝辞/「水魚の交り-魯山人と弦一郎 内

一」平野雅章/図版/出品作品一覧/資料

発 行 部 数 1.000部

格 1,600円

2002年





ミローマヨルカ島の光の中で

様 A 4 版変形 80ページ

編 集 植松由佳、伊東佐和子(丸亀市猪熊弦一郎現代美術 館)、園田博一(宮崎県立美術館)、荒木夏実、朝倉祐 一朗 (財)三鷹市芸術文化振興財団)

訳 セーラ・アレン 荒木夏実 翻

ィ ン 中島康夫 (有限会社エムワンデザイン) デ

作 凸版印刷株式会社 制

行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、宮崎県立美術館、新津 杂 市美術館、、財三鷹市芸術文化振興財団、、株アートライフ

発 行 部 数 3,500部

格 1,500円 価

2002年

(平成14年7月)



オシャベリ@美術館

みる・きく・はなす ピカソ、岸田劉生、ウォーホル etc.

様 B 5 版変形 和綴じ本

編集・発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、財団法人ミモカ美術振 興財団

ィン 株式会社 N.G. AD:永井裕明 D:岩田勇紀 デ

刷 平和写真印刷株式会社 印

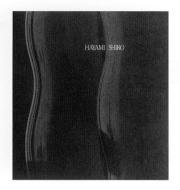
容 みなさんへ/謝辞/図版・解説/「オシャベリ@美術 内 館」とは 植松由佳/作品リスト/作家プロフィール

行 部 数 700部 発

価 格 1,600円

2002年

(平成14年12月)



速水史朗一風土記(さぬきうた)一展カタログ

型 300×280mm 56ページ

編集・発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/財団法人ミモカ美術振 興財団

デザイン 桑畑吉伸

作 美術出版デザインセンター

歷/個展歷

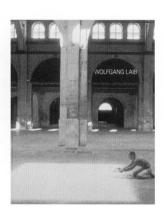
容 謝辞/あいさつ/「MIMOCAへのメッセージ」速水 史朗/「オバケ」から「道祖神」へ 粟津則雄/「速 水の家族」 飯島耕一/速水史朗による『風土記』 植松由佳/図版/作品リスト/図版(環境造形)/略

発 行 部 数 500部

格 2,500円 価

2003年

(平成15年1月)



WOLFGANG LAIB

様 A4版変形 112ページ 仕

集 東京国立近代美術館(松本透、鈴木勝雄、三輪健仁)、 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/財団法人ミモカ美術振 興財団 (中田耕市)

訳 中田耕市、松本透、山本和弘 和

英 訳 小川紀久子

デ ザ イ ン 桑畑吉伸

作 コギト 制

発 行 東京国立近代美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/ 財団法人ミモカ美術振興財団

発 行 部 数 5,300部

格 1,500円

IV

教育普及事業

v 美術図書室利用状況

2001年度(平成13年度)

月	入 室 者	累計	日数	平均
2001. 4月	2 7 3	2 7 3	3 0	9.1
5月	3 6 5	6 3 8	3 1	11.8
6月	1 3 4	7 7 2	2 3	5.8
7月	3 3 4	1,106	2 6	12.8
8月	4 9 1	1,597	3 1	15.8
9月	2 7 6	1,873	2 5	11.0
10月	1 6 4	2,037	3 1	5.3
11月	6 6 7	2,704	3 0	22.2
12月	1 8 5	2,889	1 8	10.3
2002. 1月	3 1 4	3,203	3 1	10.1
2月	2 3 2	3,435	2 2	10.5
3月	3 0 4	3,739	3 1	9.8

329日 3,739人 (平均 11.4人)

2002年度 (平成14年度)

月	入室者	累計	日数	平 均
2002. 4月	1 9 5	1 9 5	2 5	7.8
5月	3 4 9	5 4 4	3 0	11.6
6月	1 9 8	7 4 2	2 4	8.3
7月	3 2 5	1,067	2 5	13.0
8月	5 4 0	1,607	3 1	17.4
9月	2 2 0	1,827	2 3	9.6
10月	2 3 1	2,058	3 1	7.5
11月	2 4 4	2,302	3 0	8.1
12月	9 1	2,393	1 5	6.1
2003. 1月	2 0 8	2,601	3 1	6.7
2 月	2 1 1	2,812	2 8	7.5
3 月	4 3 9	3,251	2 7	16.3

320日 3,251人 (平均 10.2人)

IV 教育普及事業 vi ミモカフレンド

美術館で開催する展覧会、講演会などの事業を通して、 猪熊芸術及び内外の現代美術に親しむ事を目的として 1995年4月に発足した。なお、名称については、生前猪 熊が考案したものである。

●主な活動内容

第7回美術鑑賞旅行 2001年7月8日(日) 高知県立美術館 「アレクサンダー・カルダー展」 高知県立牧野植物園 参加者32人

第8回美術鑑賞旅行

2001年11月11日(日) 直島コンテンポラリーアートミュージアム 「開館10周年記念企画 THE STANDARD」 参加者28人

第9回美術鑑賞旅行

2002年6月30日(日) 京都国立近代美術館 「カンディンスキー展」 京都市美術館 「シャガール展」 参加者41人

第10回美術鑑賞旅行

2002年10月20日(日) 兵庫県立美術館 「ゴッホ展」 参加者43人



高知県立牧野植物園にて

ミモカフレンド鑑賞会

2002年3月3日(日) 「手探りのキッス 日本の現代写真」 担当学芸員によるギャラリートーク 参加者9人

ミモカフレンド鑑賞会

2003年1月18日(土)、2月11日(火/祝) 「速水史朗展-風土記-」 展覧会出品作家によるギャラリートーク 参加者13人

IV

教育普及事業

vii ミモカキッズパスポート







ミモカ キッズ パスポート

猪熊弦一郎は子どもたちとその作品を心から愛して止まなかった。美しいものや、楽しいものをたくさん見てもらうことで、感性豊かな人間に成長して欲しいと願っていた。そこで作品に触れる機会をより多く持ってもらうため、当館では平成8年5月より高校生以下は入館無料としている。さらに高校生以下は無料で観覧できることを広く周知し、また美術館及び猪熊弦一郎に接する機会を増してもらい、芸術に親しむ心を育むため、平成11年7月より丸亀市PTA連合協議会と協力しパスポートを発行、配布した。

期間 毎年7月1日から1年間有効

対象 市内保育所、幼稚園年長児 市内小中学生全員 高校生以下の来館者で希望した人

来館時にパスポートを提示すると裏面にスタンプが押印され、1年間に9回スタンプが押されると対話彫刻キット (オブジェを作成する材料キット) か、ポストカードを渡す。

ミモカ キッズ パスポート年間利用者数 2001年4月~2003年3月 2001年度

		幼·保	小学生	中学生	高校生	小 計
ヤン・ファーブル展 Angel and Warrior-Strategy and Tactics	$4/1 \sim 5/27$	10	80	11	3	104
ジョージ・シーガル展-切り取られたその瞬間	$6/14 \sim 7/22$	7	166	43	3	219
猪熊弦一郎展 カチナドールの宇宙 MIMOCA'S EYE VOL. 1 野口里佳展[予感]	7 /28~ 9 /16	8	76	19	5	108
開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展 時代を生かし 彩ったもう一つの世界	$9/22\sim 12/9$	3	66	9	3	81
北大路魯山人展 12	/15~02/2/3	8	20	5	2	35
手探りのキッス 日本の現代写真	$2/10\sim 3/31$	1	22	2	0	25
	計	37	430	89	16	572

2002年度

		幼·保	小学生	中学生	高校生	小 計
手探りのキッス 日本の現代写真	$4/1 \sim 4/7$	2	9	2	0	13
キッズ・サイズ・デザイン展 子供たちのくもの>とく心>の世界	4/13~6/2	6	52	2	1	61
ミローマヨルカ島の光の中で	$6/9 \sim 7/21$	45	129	17	5	196
オシャベリ@美術館 みる・きく・はなす ピカノ、岸田劉生、ウォーホル etc.	$7/28 \sim 9/23$	17	170	44	5	236
猪熊弦一郎展 -地図でない地図-	10/1 ~12/5	3	67	12	3	85
速水史朗展-風土記- 12	2/15~03/3/9	2	43	13	0	58
ヴォルフガング・ライプ展 Durchgang-Übergang	3/21~3/31	6	18	6	2	32
	計	81	488	96	16	681

IV 教育普及事業

viii 市内教職員対象解説会

展 覧 会 名	開催日	時間	保育所	幼稚園	小学校	中学校	その他	小計
ヤン・ファーブル展 Angel and Warrior-Strategy and Tactics	2001. 3.2金	16時30分~	5	13	3	1	1	23
ジョージ・シーガル展-切り取られたその瞬間	2001. 6.16生	14時~	0	0	0	1	0	1
猪熊弦一郎展 カチナドールの宇宙 /MIMOCA'S EYE VOL.1 野口里佳展[予感]	2001. 7.27金	16時~	0	0	0	1	0	1
開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展 時代を生かし 彩ったもう一つの世界	2001. 9.20休	16時30分~	0	0	2	0	0	2
北大路魯山人展	2001.12.14金	17時30分~	0	1	9	3	0	13
ミローマヨルカ島の光の中で	2002. 6.14金	17時~	0	0	4	6	0	10
猪熊弦一郎展 -地図でない地図-	2002.10.6(日)	11時~	0	0	6	1	0	7
速水史朗展-風土記-	2002.12.21(土)	10時30分~	0	1	3	0	0	4
		計	5	15	27	13	1	61

\bigvee

その他事業

i ミュージアムショップ

ミュージアムショップは1階エントランスホールに設けられている。商品は全てオリジナルであり、当初猪熊弦一郎自らグッズ製作に携わった。猪熊の『街では売ってないもの、美術館だからあるもの』を提供するという姿勢を受け継ぎ、作品をもとにした商品を新しく開発している。

今回は開館10周年を記念して猪熊弦一郎画伯自身の手がモチーフになった作品『白い丸を持った手』(1980年)をもとに「2001年限定 T シャツ」を 7 月から販売。これは M・L サイズが単独で圧縮されたボール型と、たまごの白身状に圧縮された T シャツ 2 枚の中からキッズサイズの T シャツがでてくるたまご型 (L・M・Kids サイズ 3点セット)がある。また2001年9月22日から開催された『開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展 時代を生かし彩ったもう一つの世界』の会期中に展示された、猪熊によるテキスタイルデザインのひとつをモチーフに選び、トートバッグ『猫の庭』を製作・販売し好評を得た。





トートバッグ『猫の庭』

価格 3,000円(税別) 素材 綿100%



2001年限定 T シャツ 左: Kids サイズ 右: L サイズ



2001年限定 T シャツ [たまご型] 3 点(L・M・Kids) セット

協力 三宅デザイン事務所・株式会社イッセイミヤケ

【たまご型】 価格 7,500円(税別) サイズ L・M・Kids 100個限定 素材 綿100%

\bigvee

その他事業

ii

カフェ

1995年(平成7年)6月1日より、財団法人ミモカ美術振興財団の直営となったカフェレスト・ミモカは、1998年から展覧会毎にその内容と開催期間に合わせ、フレーバーティや季節の紅茶などを含む限定メニューを提供しており、来館者の好評を博している。

2001年度

ジェラート コン カフェ (ジョージ・シーガル展-切り取られたその瞬間)

ぶどうのフルフルゼリー (夏の限定メニュー)

よくばりミモカプレート

(開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展 時代を生かし 彩ったもう一つの世界)

抹茶あずきのマーブルケーキ(北大路魯山人展)

カフェ コン パンナ

(手探りのキッス 日本の現代写真)

2002年度

あんずソースのミルクプリン (キッズ・ザイズ・デザイン展 子供たちの<もの>と<心>の世界)

オレンジタルト (ミローマヨルカ島の光の中で)

ぶどうのフルフルゼリー (夏の限定メニュー)

かぼちゃのくり抜きアントルメ

(猪熊弦一郎展 一地図でない地図一)

タルトショコラ (速水史朗展―風土記―)

洋なしのバターケーキ

(ヴォルフガング・ライプ展 Durchgang-Übergang)



VI

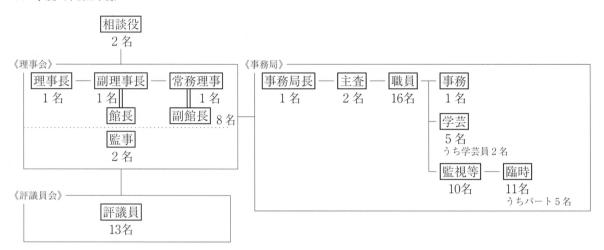
入館者状況

会期	展覧会名	日数(日)	入場者数(人)	平均(%)
			2001年度	(平成13年度)
2001年4月1日~2001年5月27日	ヤン・ファーブル展 Angel and Warrior-Strategy and Tactics	5 7	7,927	1 3 9
2001年6月14日~2001年7月22日	ジョージ・シーガル展ー切り取られたその瞬間	3 9	4,982	1 2 8
2001年7月28日~2001年9月16日	猪熊弦一郎展 カチナドールの宇宙	5 1	6,238	1 2 2
2001年7月28日~2001年9月16日	MIMOCA'S EYE VOL.1 野口里佳展[予感]	5 1	6,238	1 2 2
2001年9月22日~2001年12月9日	開館10周年記念 猪熊弦一郎の仕事展 時代を生かし 彩ったもう一つの世界	7 9	11,596	1 4 7
2001年12月15日~2002年2月3日	北大路魯山人展	4 4	11,121	2 5 3
2002年2月10日~2002年3月31日	手探りのキッス 日本の現代写真	5 0	3,731	7 5
2001年4月1日~2002年3月31日	常設展	3 3 0	45,954	1 3 9
			計 9 7, 7 8 7 (累計 1,128,075)	5 1
			2002年度	(平成14年度)
2002年4月1日~2002年4月7日	手探りのキッス 日本の現代写真	7	5 4 4	7 8
2002年4月13日~2002年6月2日	キッズ・サイズ・デザイン展 子供たちのくもの>とく心>の世界	5 1	9,300	1 8 2
2002年6月9日~2002年7月21日	ミローマヨルカ島の光の中で	4 3	6,377	1 4 8
2002年7月28日~2002年9月23日	オシャベリ@美術館 みる・きく・はなす ピカソ、岸田劉生、ウォーホルではた	5 8	8,147	1 4 0
2002年10月1日~2002年12月5日	猪熊弦一郎展 -地図でない地図-	6 6	5,129	7 8
2002年12月15日~2003年3月9日	速水史朗展-風土記-	7 8	6,426	8 2
2003年3月21日~2003年3月31日	ヴォルフガング・ライプ展 Durchgang-Übergang	1 1	1,554	1 4 1
2002年4月1日~2003年3月31日	常設展	3 2 2	38,238	1 1 9
			計 7 5 , 7 1 5 (累計 1,203,790)	

\mathbf{W}

組織図

2001年度 (平成13年度)



相談役 小倉 忠夫 大原美術館館	相	談 役	小倉	忠夫	大原美術館館	巨
------------------	---	-----	----	----	--------	---

理

事 片山 圭之 丸亀市市長 (理事長) 小佐古公士 丸亀市教育委員会教育長 (館長 兼 副理事長)

島川 修治 丸亀商工会議所副会頭

柴村 昭司 丸亀平井美術館副館長

監事 山地 隆 丸亀市識見委員

評議員 小河 稔 丸亀市社会教育委員委員長 森安満里子 丸亀市婦人団体連絡協議会会長

伊崎 紘子 丸亀市小学校研究会図工・美術造形部会代表

 植田
 静香
 丸亀市幼稚園長会会長

 梅本
 美代
 丸亀市保育所長会会長

 香川
 宏
 四国新聞社メディア開発室

大西 康彦 彫刻家

荒井 茂雄 新制作協会会員

河野 虎雄 丸亀市文化協会会長 小田原保雄 丸亀市教育委員会委員長

山地 洋子 子供をとりまく文化を考える会

上原 宏一 丸亀市教育委員会教育次長 (副館長兼常務理事)

田中 照明 丸亀市収入役

川松 美智 丸亀ユネスコ協会副会長

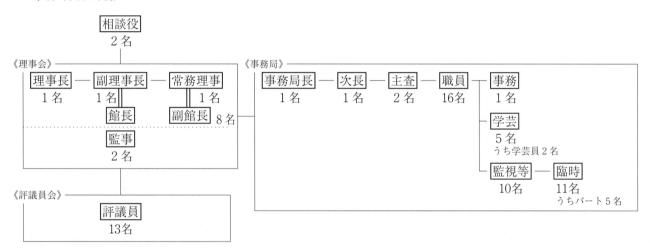
川崎 展子 洋画家

浅海 和明 丸亀市教育委員会生涯学習課長 大西 伯治 丸亀市教育委員会文化課長 酒井 明世 ウィメンズネットワーク香川代表

山崎 洋子 街づくりグループまるみな

〔2002年3月31日現在〕

2002年度(平成14年度)



相談役 高階 秀爾 大原美術館館長

理 事 片山 圭之 丸亀市市長 (理事長)

小佐古公士 丸亀市教育委員会教育長 (館長 兼 副理事長)

島川 修治 丸亀商工会議所副会頭

土居 徹 丸亀平井美術館副館長

監事山地 隆 丸亀市識見委員

評議員 小河 稔 丸亀市社会教育委員委員長

森安満里子 丸亀市婦人団体連絡協議会会長 野藤 等 丸亀市小学校研究会図工・美術造形部会代表

 植田
 静香
 丸亀市幼稚園長会会長

 梅本
 美代
 丸亀市保育所長会会長

 香川
 宏
 四国新聞社メディア開発室

大西 康彦 彫刻家

荒井 茂雄 新制作協会会員

河野 虎雄 丸亀市文化協会会長

小田原保雄 丸亀市教育委員会委員長

山地 洋子 子供をとりまく文化を考える会

小橋 清信 丸亀市教育委員会教育次長 (副館長兼常務理事)

田中 照明 丸亀市収入役

川松 美智 丸亀ユネスコ協会副会長

川崎 展子 洋画家

酒井 明世 ウィメンズネットワーク香川代表

直江 安俊 丸亀市教育委員会文化課長 山崎 洋子 街づくりグループまるみな

亀井 敬子 子供絵画造形教室アトリエ K

[2003年3月31日現在]



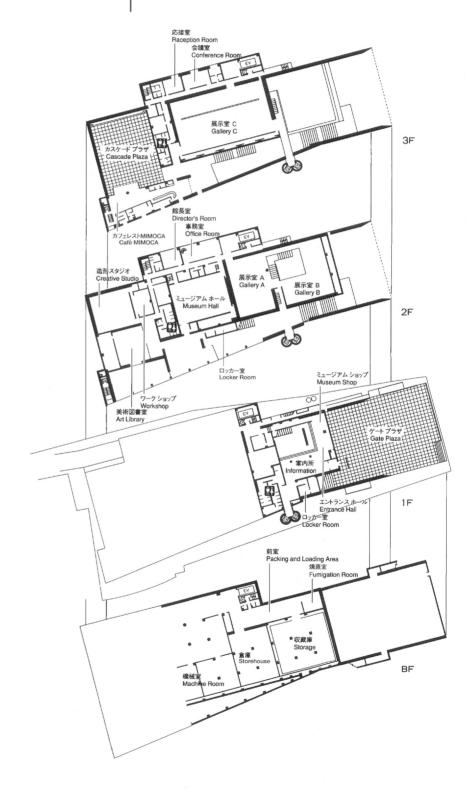
施設概要

所 在 地 丸亀市浜町80番地1 敷地面積 5,974.53m2 規模構造 鉄骨鉄筋コンクリート構造 地下1階, 地上3階 最高高さ 20m 建築面積 3,564.80 m2 延床面積 11,948.14m2 仕上外壁 アルミ押出型材-Y(スパンドレル) 石(バーリントンスレート) コンクリート打放し 仕上内装 床:大理石,花崗岩,フローリングタイ ル,ライムストーン,カーペットタイル,ゴム タイル, 塩ビシート 壁:クロステックス(展示室)ナプコホワ イト, ビニールクロス, 布クロス 天井:岩綿吸音ボード AEP,ボード塗 装,アルミパネル 設 計 谷口建築設計研究所 理 丸亀市建築課 谷口建築設計研究所 工 建築工事 (株)鹿島建設 施 電気設備工事 (株)栗原工業 機械設備工事 (株川崎設備工業 平成元年11月21日着工 Т 平成3年6月20日竣工 3階●展示室C 642. 74 m² Gallery C カスケードプラザ 532. 40 m² Cascade Plaza カフェレスト MIMOCA 236. 67 m² Café MIMOCA 会議室 Conference Room 2階●展示室 A 285.66m² Gallery A 展示室 B 286. 96 m² Gallery B ミュージアムホール 297. 05 m² Museum Hall 170席(舞台照明·音響·映像設備完備) 造形スタジオ 202. 15m² Creative Studio ワークショップ 60.00 m² Room for Workshop 美術図書室 195. 20m² Art Library ロッカー室 Locker Room 1階●案内所 Information ミュージアムショップ Museum Shop

ロッカー室 Locker Room B F • 収蔵庫

Storage

373. 64 m²



IX

利用案内

開館時間 休館 日観覧料

午前10時~午後6時(入館は5時30分まで)

年末・12月25日~31日、他に展示替えのための臨時休館(会期中無休)

常設展 一般 300円 (団体240円)

大学生 200円 (団体160円)

企画展 その都度料金設定

無料 高校生以下

身体障害者手帳、療育手帳をお持ちの方(介護者を含む) 中讃広域行政圏に住所をお持ちの65歳以上の方 *中讃広域行政圏 - 丸亀市・善通寺市・綾歌町・

飯山町・琴南町・満濃町・琴平町・多度津町・ 仲南町の2市7町

割引 20名以上の団体 2割引

交诵案内

□新幹線を利用する場合

東京~岡山 約3時間

①特急を利用の場合

岡山~丸亀 特急 約40分

②マリンライナー(坂出乗換)を利用の場合 岡山〜坂出 マリンライナー 約40分 坂出〜丸亀 普通 約10分

JR丸亀駅から徒歩約1分

□飛行機を利用する場合

東京~高松空港 約1時間

- ①空港からタクシーを利用の場合 約40分
- ②空港からバス、高松からJR利用の場合 バス 約40分

電車(特急)約20分

□高速道路を利用する場合

岡山〜瀬戸中央自動車道 坂出北ICから丸亀市方面へ約20分 松山から 松山・高松自動車道 善通寺ICから丸亀市方面へ約15分 高知から 高知・高松自動車道 善通寺ICから丸亀市方面へ約15分

徳島から 徳島自動車道 美馬ICから丸亀市方面へ約40分

駐車場◆JR丸亀駅前地下駐車場を利用(1時間無料)

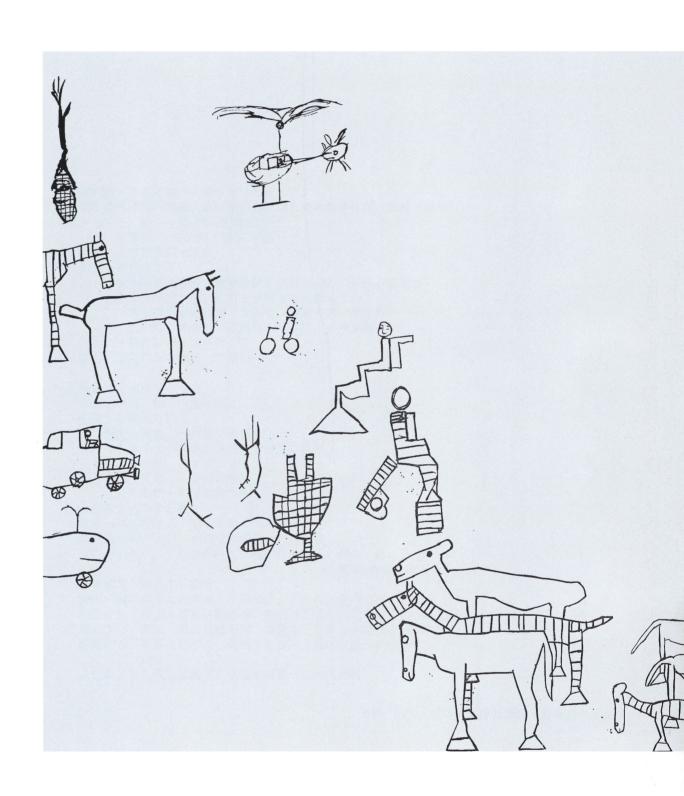
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館年報 2001-2002

平成16年3月 印刷 平成16年3月 発行

編集·発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

香川県丸亀市浜町80-1 TEL(0877)24-7755

印 刷 平和写真印刷株式会社 香川県丸亀市土器町北1-18 TEL(0877)23-1300



Marugame Genichiro-Inokuma Museum Of Contemporary Art Biennial Report 2001-2002